

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典講読 I a	本間 敏雄
前期・2単位	<登録条件> ヒブル語基礎文法修得者
<p><授業の到達目標及びテーマ> 当該の聖書ヒブル語本文を読み、文章論とマソラ本文の基礎的事柄を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 創世記 6、7（～7：5）、8、9 章（～9：7）のノアの洪水物語を読む。ヒブル語聖書の文章論、当該本文の緒論的事項を学びつつ、マソラ本文と写本の基礎知識を習得する。印刷聖書の本文と脚注、諸訳を本学的に検討し、ヒブル語本文の理解を深めたい。</p>	
<p><履修条件> 学期ごとに履修できる。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：創世記6：1-3 神の子達の結婚 第2回：創世記6：4-6 ネフィリム伝説、神の後悔 第3回：創世記6：7-10 ノア 義人の生 第4回：創世記6：11-13 罪と罰 第5回：創世記6：14-16 箱舟 第6回：創世記6：17-20 箱舟に入るもの 第7回：創世記6：21-7：1 ノア 義人の行為 第8回：創世記7：2-5 資料問題（6、7章） 第9回：創世記8：1-3 神の想起 第10回：創世記8：4-7 鳥 第11回：創世記8：8-11 鳩 第12回：創世記8：12-14 地の乾き 第13回：創世記8：15-19 箱舟から出たもの 第14回：創世記8：20-22 祭壇と神 第15回：創世記9：1-7 祝福と創造・審判伝承</p>	
<p><準備学習等の指示> 予習大切</p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS)、レニングラード写本 (Codex Leningradensis) 写真版</p>	
<p><参考書> 諸資料（文章論、写本資料等）を必要に応じて配布する。他に、「旧約聖書の本文研究」（E. ヴェルトヴァイン）</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> レポートとそれ以外のもの（予習等）との総合で評価する。学期毎に成績を出す。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典講読 I b	本間 敏雄
後期・2単位	<登録条件> ヒブル語基礎文法修得者
<p><授業の到達目標及びテーマ> 当該のヒブル語本文を写本で読み、マソラ本文の諸現象と特質を学び、解釈の土台と可能性を探る。</p>	
<p><授業の概要> 原初史を締めくくるバベル物語（創世記 11 章）と、族长物語冒頭のアブラムの召命物語（12、13 章）を読む。本文理解と文章論の関係が深いテキストであるが、関連するマソラに見られるヒブル語写本の諸現象を学び、マソラ本文の特質を把握したい。ユダヤ教的解釈を視野に、アブラ(ハ)ム像を巡る解釈の地平を展望したい。</p>	
<p><履修条件> 学期ごとに履修できる。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第 1 回： 創世記 11：1-4 バベルの塔 第 2 回： 創世記 11：5-8 神の介入 第 3 回： 創世記 11：9-11 バラル、セムの系図 第 4 回： 創世記 11：24-28 テラ 第 5 回： 創世記 11：29-32 テラの死 第 6 回： 創世記 12：1-3 召命と約束 第 7 回： 創世記 12：4-6 応答 第 8 回： 創世記 12：7-9 約束の更新(1) 第 9 回： 創世記 12：10-13 エジプトへ 第 10 回： 創世記 12：14-16 サライ事件 第 11 回： 創世記 12：17-20 譴責 第 12 回： 創世記 13：1-4 ネゲブの祭壇 第 13 回： 創世記 13：5-8 争いと離別 第 14 回： 創世記 13：9-13 ロトの選択 第 15 回： 創世記 13：14-18 約束の更新(2)</p>	
<p><準備学習等の指示> 予習大切</p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS)、レニングラード写本 (Codex Leningradensis) 写真版。</p>	
<p><参考書> 「旧約聖書の本文研究」(E. ヴェルトヴァイン)。諸資料(文章論、写本・マソラ資料等)は必要に応じて配布する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> レポートとそれ以外のもの(予習、課題の発表等)との総合で評価する。学期毎に成績を出す。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典釈義 I a	小友 聡
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書のヘブライ語原典を丁寧に読み、注解書や研究論文を参照しつつ、釈義する。</p>	
<p><授業の概要> この学期は、「コヘレトの言葉」を読み、釈義する。</p>	
<p><履修条件> ヘブライ語の基本文法を理解できること。</p>	
<p><授業計画> 第1回：コヘレトの言葉について 第2回：1章1－6節の直訳と本文批評、釈義。 第3回：1章7－11節の直訳と本文批評、釈義。 第4回：1章12－15節の直訳と本文批評、釈義。 第5回：1章16－18節の直訳と本文批評、釈義。 第6回：2章1－4節の直訳と本文批評、釈義。 第7回：2章5－10節の直訳と本文批評、釈義。 第8回：2章11－15節の直訳と本文批評、釈義。 第9回：2章16－21節の直訳と本文批評、釈義。 第10回：2章22－26節の直訳と本文批評、釈義。 第11回：3章1－8節の直訳と本文批評、釈義。 第12回：3章9－15節の直訳と本文批評、釈義。 第13回：3章16－22節の直訳と本文批評、釈義。 第14回：コヘレトの言葉1－3章の意義について 第15回：総括</p>	
<p><準備学習等の指示> 毎回、テキストをよく読み、準備すること。</p>	
<p><テキスト> BHSを用いる。また、辞書はBDBを用いるので、毎回持参すること。</p>	
<p><参考書> 上記で用いる注解書等のほか、ウォンネベルガー『ヘブライ語聖書への手引き』を用いる。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 演習に積極的に参加することを求める。毎回の発表と授業態度によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典釈義 I b	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書のヘブライ語原典を丁寧に読み、注解書や研究論文を参照しつつ、釈義する。</p>	
<p><授業の概要> この学期は、引き続き「コヘレトの言葉」を読み、釈義する。</p>	
<p><履修条件> ヘブライ語の基本文法を理解できること。</p>	
<p><授業計画> 第1回：コヘレトの言葉 4章 1-6節の直訳と本文批評、釈義。 第2回：4章 7-11節の直訳と本文批評、釈義。 第3回：4章 12-17節の直訳と本文批評、釈義。 第4回：5章 1-6節の直訳と本文批評、釈義。 第5回：5章 7-12節の直訳と本文批評、釈義。 第6回：5章 13-19節の直訳と本文批評、釈義。 第7回：6章 1-6節の直訳と本文批評、釈義。 第8回：6章 7-11節の直訳と本文批評、釈義。 第9回：7章 1-10節の直訳と本文批評、釈義。 第10回：7章 11-18節の直訳と本文批評、釈義。 第11回：7章 19-25節の直訳と本文批評、釈義。 第12回：7章 26-29節の直訳と本文批評、釈義。 第13回：8章 1-7節の直訳と本文批評、釈義。 第14回：1-8章の意義について 第15回：総括</p>	
<p><準備学習等の指示> 毎回、テキストをよく読み、準備すること。</p>	
<p><テキスト> BHSを用いる。また、辞書はBDBを用いるので、毎回持参すること。</p>	
<p><参考書> 上記で用いる注解書等のほか、ウォンネベルガー『ヘブライ語聖書への手引き』を用いる。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 演習に積極的に参加することを求める。毎回の発表と授業態度によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書学特研 I a	大住 雄一
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約神学、釈義、歴史に関する諸問題から、一つの主題を掲げて深く掘り下げる特殊研究クラスである。</p>	
<p><授業の概要> 今学期は、民数記（特に後半部分）のテキスト釈義を行い、神学的なイスラエル、また歴史的なイスラエルの姿を描き出す。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 民数記全体の構造、構造を指し示すキーワード・キーテキスト 2. イスラエルを導く権威の所在、アロンの罪と死 テキスト：民数記 20 章 3. モーセの罪と死 テキスト：民数記 20:1-13, 27:12-23 4. 出エジプト第二世代の部族の構成と大きさ テキスト：民数記 26 章 5. 女性の土地相続 テキスト：民数記 27 章、36 章 6. 日々の献げ物、特定の日の献げ物 テキスト：民数記 28 章 7. 第七の月とは何か テキスト：民数記 29 章 8. 誓願について、女性の例外規定 テキスト：民数記 30 章、6 章 9. イスラエル女性の名誉 テキスト：民数記 5:11-31, 申命記 22:13-29 10. ミディアンの女 テキスト：民数記 31:1-24 11. 戦利品の分配規定 テキスト：民数記 31:25-54 12. ヨルダンの東に残った部族 テキスト：民数記 32 章 13. エジプトから約束の地まで テキスト：民数記 33 章 14. 土地の分配とレビ人の町・逃れの町 テキスト：民数記 34-5 章 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia</p>	
<p><参考書> 参考文献はそのつど指示するが、いくつかの註解書を各自選んで常に参照すること。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 割り当てられた報告の内容と、毎回の討論への参加度によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書学特研 I b	大住 雄一
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約神学、釈義、歴史に関する諸問題から、一つの主題を掲げて深く掘り下げる特殊研究クラスである。</p>	
<p><授業の概要> 今回は、申命記のテキスト釈義を行い、イスラエル存立の基盤になった歴史と、そのような歴史によって今在るを得たイスラエルをそれに相応しく保つための法を明らかにする。</p>	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 申命記全体の構造、構造を指し示すキーワード・キーテキスト 2. 歴史によって基礎付けられる契約と法 テキスト：申命記 1:1-8 3. イスラエルの法制度の根拠たる歴史 テキスト：申命記 1:9-18 4. 約束の成就の前にしり込みするイスラエル テキスト：申命記 1:19-46 5. しり込みしてはならない テキスト：申命記 7 章 6. 土地占有の根拠 テキスト：申命記 7 章 7. 申命記 7 章と十戒 テキスト：申命記 7:7-11, 5:6-21 8. 約束の成就と法 テキスト：申命記 6:10-15 9. 歴史の経験 テキスト：申命記 6:16-19 10. 今日をかくあらしめている歴史 テキスト：申命記 6:20-25 11. 主とイスラエルの相互規定 テキスト：申命記 5:6-10 12. イスラエルの「しるし」 テキスト：申命記 6:6-9 13. 「エジプトの重い病気」 テキスト：申命記 7:12-15 14. 荒野の旅の教訓 テキスト：申命記 8 章 15. まとめ 	
<準備学習等の指示>	
<テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia	
<p><参考書> 参考文献はそのつど指示するが、いくつかの註解書を各自選んで常に参照すること。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 割り当てられた報告の内容と、毎回の討論への参加度によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書学演習 I a	小友 聡
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書学の基本文献をじっくり読み、旧約学の基本的知識を身につける。旧約聖書学とはどのような学問かを知り、その知見を広げることが目的である。</p>	
<p><授業の概要> 前期は、関根正雄『イスラエル宗教文化史』と B.ラング『ヘブライの神』を読み、毎回その内容をめぐって議論する。毎回、参加者に内容報告をしていただく。</p>	
<p><履修条件> ヘブライ語の知識はなくてよい。旧約専攻以外の方々に履修していただきたい。</p>	
<p><授業計画> 第1回：総論 第2回：『イスラエル宗教文化史』第1章「契約」 第3回：同第2章「律法」 第4回：同第3章「文化の問題」 第5回：同第4章「預言者」 第6回：同第5章「ユダヤ教の成立」 第7回：『ヘブライの神』序論（1-2章） 第8回：同「知恵の主」（3-5章） 第9回：同「戦争の主」（6-8章） 第10回：同「動物の主」（9-11章） 第11回：同「個人の主」（12-14章） 第12回：同「収穫の主」（15-17章） 第13回：同「ヘブライの神」（18-20章） 第14回：同「付録」 第15回：総括</p>	
<p><準備学習等の指示> 毎回、あらかじめテキストを読んで参加すること。</p>	
<p><テキスト> 関根正雄『イスラエル宗教文化史』、岩波全書（2500円） B.ラング（加藤訳）『ヘブライの神』、教文館（4000円）</p>	
<p><参考書> そのつど指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表の内容と提出していただくレポートによって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書学演習 I b	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書学の基本文献をじっくり読み、旧約学の基本的知識を身につける。旧約聖書学とはどのような学問かを知り、その知見を広げることが目的である。</p>	
<p><授業の概要> 後期は、土岐健治『旧約聖書外典偽典概説』を読み、外典・偽典の諸文書の内容を知る。毎回、交代で発表をしていただき、議論する。</p>	
<p><履修条件> ヘブライ語の知識はなくてよい。旧約専攻以外の方々の履修を期待する。</p>	
<p><授業計画> 第1回：総論 第2回：ヘレニズム・ローマ時代のユダヤ史 第3回：ヘレニズム・ローマ時代のユダヤ民族のディアスポラ 第4回：第1、第2 マカベア書 第5回：第1 エズラ、トビト書、ユディト書 第6回：ダニエル書への付加、マナセの祈り、エステル書への付加 第7回：エレミヤの手紙、バルク書、ベン・シラの知恵、 第8回：ソロモンの知恵、詩編 151 編 第9回：アリストエアスの手紙、スラブ語エノク書、12 族長の遺訓 第10回：ソロモンの詩編、シリア語バルク黙示録、第4 エズラ書 第11回：第3、第4 マカベア書、エレミヤ余録 第12回：預言者の生涯、ギリシア語バルク黙示録、モーセの遺訓 第13回：アダムとエバの生涯、モーセの黙示録、アブラハムの遺訓、 第14回：ヨブの遺訓、ヨセフとアセネテ、ヨベル書、 第15回：第1 エノク書、聖書古代誌、イザヤの殉教と昇天、シュビラの託宣</p>	
<p><準備学習等の指示> あらかじめ『概説』を読み、また、できるだけ外典偽典のテキストも通読すること。</p>	
<p><テキスト> 土岐健治『旧約聖書外典偽典概説』、教文館、3,200 円を用いる。 さらに、日本聖書学研究所編『聖書外典偽典』（全7巻別巻2冊）、教文館、を資料として用いる。</p>	
<p><参考書> そのつど指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表の内容と提出していただくレポートによって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
アラム語 a	佐藤 泉
前期・2単位	<登録条件> 通年での履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書原典は主にヘブライ語で、一部アラム語で書かれている。この授業では、聖書のアラム語のテキストを読むことと古代訳の一つであるタルグム（アラム語訳）を読むことを目標としている。</p>	
<p><授業の概要> 聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（創世記31：47・エレミヤ10：11・エズラ4：8-24・5：1-17など）、アラム語文法を学ぶ。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：序 アラム語について、言語グループ、時代区分などを話す。</p> <p>第2回：創世記31：47を読みつつ、アラム語の名詞・形容詞を学ぶ。</p> <p>第3回：エレミヤ10：11を読みつつ、動詞の Peal 形の完了・未完了を学ぶ。</p> <p>第4回：エズラ4：8-24の講読(1) 不規則変化の名詞について学ぶ。</p> <p>第5回：エズラ4：8-24の講読(2) 動詞の Hapel 形の完了を学ぶ。</p> <p>第6回：エズラ4：8-24の講読(3) 動詞の Peal 形の分詞、Hitpeel 形の完了・未完了を学ぶ。</p> <p>第7回：エズラ4：8-24の講読(4) 動詞の Pael 形の完了・未完了、Hapel 形の未完了を学ぶ。</p> <p>第8回：エズラ4：8-24の講読(5) 動詞の Hapel 形の分詞を学ぶ。</p> <p>第9回：エズラ4：8-24の講読(6) 動詞の Pael 形・Hitpeel 形・Hitpaal 形の分詞を学ぶ。</p> <p>第10回：エズラ4：8-24の講読(7) 二根字動詞の Peal 形と動詞の不定詞・命令を学ぶ。</p> <p>第11回：エズラ5：1-17の講読(1) 前置詞と代名詞語尾を学ぶ。</p> <p>第12回：エズラ5：1-17の講読(2) 二根字動詞の Hapel 形を学ぶ</p> <p>第13回：エズラ5：1-17の講読(3) 二根字動詞の Hitpeel 形を学ぶ。</p> <p>第14回：エズラ5：1-17の講読(4) Pè Yòd 動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第15回：エズラ5：1-17の講読(5) Pè Nun 動詞の変化を学ぶ。</p>	
<p><準備学習等の指示> 講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。</p>	
<p><テキスト> Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition</p>	
<p><参考書> 左近義慈、『ヒブル語入門』、教文館、1966 William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
アラム語 b	佐藤 泉
後期・2単位	<登録条件> 通年での履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書原典は主にヘブライ語で、一部アラム語で書かれている。この授業では、聖書のアラム語のテキストを読むことと古代訳の一つであるタルグム（アラム語訳）を読むことを目標としている。</p>	
<p><授業の概要> 聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（ダニエル5章）、アラム語文法の学びを継続する。さらに、エレミヤ書のタルグムの講読もする。（箇所は未定。授業中に指示する。）</p>	
<p><履修条件> ヒブル語履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：ダニエル書の緒論的知識を確認し、前期の文法の復習をしつつ、ダニエル5章の講読に備える。</p> <p>第2回：ダニエル5章の講読(1) Pê' ālep 動詞の Peal 形を学ぶ。</p> <p>第3回：ダニエル5章の講読(2) Pê' ālep 動詞の Hapel 形を学ぶ。</p> <p>第4回：ダニエル5章の講読(3) 動詞の変化で字位転換が起こる場合について学ぶ。</p> <p>第5回：ダニエル5章の講読(4) Lamed' ālep・Lamed Hê 動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第6回：ダニエル5章の講読(5) 二重' ayin 動詞の Peal 形を学ぶ。</p> <p>第7回：ダニエル5章の講読(6) 二重' ayin 動詞の Hopal 形を学ぶ。</p> <p>第8回：ダニエル5章の講読(7) 代名詞語尾付きの動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第9回：ダニエル5章の講読(8) 喉音を含む動詞について学ぶ。</p> <p>第10回：ダニエル5章の講読(9) 特殊な変化をする動詞について学ぶ。</p> <p>第11回：エレミヤ書の緒論的知識とバビロニア方式の母音記号を確認し、タルグムの講読に備える。</p> <p>第12回：タルグムの講読(1) バビロニア方式の母音記号で読むことに慣れる。</p> <p>第13回：タルグムの講読(2) タルグムのアラム語の動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第14回：タルグムの講読(3) アラム語文法を全体的に思い出しつつ読む。</p> <p>第15回：タルグムの講読(4) 原典や七十人訳と比較しつつ読むことを味わう。</p>	
<p><準備学習等の指示> 講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。</p>	
<p><テキスト> Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition</p>	
<p><参考書> 左近義慈、『ヒブル語入門』、教文館、1966 William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
古代オリエント史Ⅱ a	中田 一郎
前期・2単位	<登録条件> 学期単位で履修できるが、通年履修が望ましい。
<授業の到達目標及びテーマ> 古代オリエント史の諸問題がテーマ。特に古代オリエントの宗教と社会に関する具体的な問題を取り上げて学ぶことにより聖書の世界をより深く理解することが到達目標である。	
<授業の概要> 前期では、古代メソポタミアの宗教に関わる諸問題を取り上げる。	
<履修条件> 特になし。	
<授業計画> 第1回：古代メソポタミアの神々 古代メソポタミアでは1800を越える神々の名が知られているが、一般の人々にとって重要な神々はどれくらいあったのだろうか。また、人々はそれらの神々とどのような関係を取り結んでいたのだろうか。 第2回：人間創造とその意味 メソポタミアでは人間が何のために創られたと考えられていたのだろうか。 第3回：神と人との間のコミュニケーション メソポタミア人は神々が何を考えているのかを知ろうとしたが、それにはどのような手段があったのだろうか。 第4回：メソポタミアの占いのいろいろ 神々の考えを知る手段の1つに占いがあったが、これにはさまざまな占いがあった。 第5回：メソポタミアの内蔵占い メソポタミア人がもっとも「科学的」と考えた神意発見の手段としての内蔵占いを概観する。 第6回：メソポタミアの夢と夢占い 文学作品や手紙に報告されている夢の例、また夢占い文書等を取り上げる。 第7回：天体占い 前1千年紀のアッシリアにおいて特に重視された天体占いについて概観する。 第8回：代理王の話 天体占いの結果、王の身に不吉なことが起こることが予想された場合、それを回避するために代理王が立てられた。ここでは、代理王の制度を具体例に基づいて解説する。 第9回：メソポタミアの預言 古代メソポタミアで知られている預言の事例を概観する。 第10回：マリ預言文書とは マリ文書預言文書の定義とマリ文書預言文書の概観。 第11回：マリ預言文書の分析 マリ預言文書に見られる預言のまとめ。 第12回：マリの預言と旧約の預言 幾つかの例を取り上げ、比較を試みる。 第13回：人間疎外の問題 人間疎外を問題とした文学作品を通してメソポタミアにおける人間疎外の問題を考える。 第14回：メソポタミア人の死生観 「ギルガメシュ叙事詩」や「イシュタルの黄泉下り」などの文学作品に見られる死生観を概観する。 第15回「ペシミスト」の宗教観 「ペシミストの対話」と題する文学作品を通して、「ペシミスト」の宗教観を分析する。	
<準備学習等の指示> 特になし。	
<テキスト> 適当な教科書がないため、毎回教室で授業のレジюмеおよびプリント資料を配布する。	
<参考書> ジャン・ボテロ著・松島英子訳『メソポタミア—文字・理性・神々—』（法政大学出版局、1998年） ジャン・ボテロ著・松島英子訳『最古の宗教』（法政大学出版局、2001年） なお、第1回目の授業の際に教室で詳しい参考文献表を配布する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 筆記試験を行う。	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
古代オリエント史Ⅱb	中田 一郎
後期・2単位	<登録条件> 学期単位で履修できるが、通年履修が望ましい。
<授業の到達目標及びテーマ> 古代オリエント史の諸問題がテーマ。特に古代オリエントの宗教と社会に関する具体的な問題を取り上げて学ぶことにより聖書の世界をより深く理解することが到達目標である。	
<授業の概要> 後期では、古代メソポタミアの社会に関わる諸問題を取り上げる。その際、ハンムラビ法典を重要な同時代史料として利用する。	
<履修条件>特になし。	
<授業計画> 第1回：正義の維持者としての王。「正義」という言葉の初出と正義の維持が王の責務であるとの考え方について述べる。『メソポタミア文明入門』106-111頁。 第2回：「法典」の性格。「法典」の意味に関する研究史を概観する。『メソポタミア文明入門』120-124頁。『ハンムラビ「法典」』159-166頁。 第3回：王碑文と「法典」の構造。王碑文と「法典」を比較することにより、「法典」の構成を考える。『ハンムラビ「法典」』167-176頁。 第4回：法の形式。決疑法、断言法、関係名詞を使った法形式などを概観する。『メソポタミア文明入門』116-120頁。『ハンムラビ「法典」』194-200頁。 第5回：社会階層。ハンムラビ「法典」に見られる社会階層について概観する。『メソポタミア文明入門』126-129頁。『ハンムラビ「法典」』83-93頁。 第6回：裁判。裁判をめぐる諸問題を概観する。『メソポタミア文明入門』129-134頁。『ハンムラビ「法典」』第1-5条とその注解。 第7回：兵士。兵士の兵役義務と生活保障について概観する。『メソポタミア文明入門』134-140頁。『ハンムラビ「法典」』第26-41条とその注解。 第8回：農民と牧夫。農民の生活と牧夫の生活を概観する。149-146頁。『ハンムラビ「法典」』第42-58条とその注解。 第9回：資本家と行商人。資本家と行商人の商業活動を概観する。『メソポタミア文明入門』147-153頁。『ハンムラビ「法典」』第cc-126条とその注解。 第10回：専門職人とその責任。医者、獣医、大工、船大工などの専門職人とその責任について概観する。『メソポタミア文明入門』153-158頁。『ハンムラビ「法典」』第215-240条とその注解。 第11回：結婚（その1）。結婚に至るまでの緒段階、結婚に伴う金銭の授受について概観する。『メソポタミア文明入門』160-165頁。『ハンムラビ「法典」』113-121頁。 第12回：結婚（その2）。一夫一婦制それとも一夫多妻制？『メソポタミア文明入門』166-169頁。 第13回：離婚。離婚に関する規定を概観する。『メソポタミア文明入門』170-174頁。『ハンムラビ「法典」』137-149条とその注解（121-125頁）。 第14回：養子縁組。養子縁組に関する規定と実際について概観する。『メソポタミア文明入門』178-182頁。『ハンムラビ「法典」』第185-194条とその注解。 第15回：遺産相続。ハンムラビ時代の遺産相続のあり方について概観する。『メソポタミア文明入門』176-178頁。『ハンムラビ「法典」』第162-167条とその注解。	
<準備学習等の指示> 特になし。	
<テキスト> 中田一郎『ハンムラビ「法典」』（第2版）（リトン、2002年） 中田一郎『メソポタミア文明入門』（岩波ジュニア新書、2007年）	
<参考書> 第1回目の授業の際に教室で詳しい参考文献表を配布する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 筆記試験を行う。	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
修士論文指導演習 旧約神学 I	大住 雄一 小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 翌年度前期末に修士論文を提出しようとする前期課程1年次生の論文執筆の指導と情報交換を行う。</p>	
<p><授業の概要> 論文を執筆することの意味とプロセスを解説し、テキスト研究ならびに二次文献の検索を行う。 毎回の授業は2名の教員が共に責任を負うが、主にそれぞれ以下の分野を担当する。 大住雄一：律法、預言者関係 小友聡：黙示文学、知恵文学関係</p>	
<p><履修条件> 2012年9月に旧約に関する修士論文提出予定者は参加すること</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：導入 論文執筆の意味 第2回：課題の見いだし方 律法関係 第3回：課題の見いだし方 預言者関係 第4回：課題の見いだし方 文学関係 第5回：テキスト翻訳 律法関係 第6回：テキスト翻訳 預言者関係 第7回：テキスト翻訳 文学関係 第8回：テキストの構造解明 律法関係 第9回：テキストの構造解明 預言者関係 第10回：テキストの構造解明 文学関係 第11回：辞書、コンコルダンスの使い方 第12回：二次文献の検索方法 第13回：暫定的な文献表の作成 第14回：二次文献の使い方 第15回：質疑応答</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> ビブリア・ヘブライカほか、論文執筆者別に指示する。</p>	
<p><参考書> 毎回必要な文献を指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 割り当てられた課題の発表（50%）、討論への貢献（50%）を総合して評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
修士論文指導演習 旧約神学Ⅱ	大住 雄一 小友 聡
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>今年度前期末に修士論文を提出しようとする前期課程二年次生の論文執筆の指導と情報交換を行う。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>論文の準備研究を各自が発表し、参加者がこれについて質問し、意見を述べる。 毎回の授業は2名の教員が共に責任を負うが、主にそれぞれ以下の分野を担当する。 大住雄一：律法、預言者関係 小友聡：黙示文学、知恵文学関係</p>	
<p><履修条件></p> <p>本年9月に旧約に関する修士論文提出予定者は参加すること</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：導入 論文執筆の手順 第2回：問題設定 律法関係 第3回：問題設定 預言者関係 第4回：問題設定 文学関係 第5回：研究史 律法関係 第6回：研究史 預言者関係 第7回：研究史 文学関係 第8回：主要テーゼ 律法関係 第9回：主要テーゼ 預言者関係 第10回：主要テーゼ 文学関係 第11回：論証過程 律法関係 第12回：論証過程 預言者関係 第13回：論証過程 文学関係 第14回：結論 第15回：最終的な質疑応答</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p> <p>論文執筆者別に指示する。</p>	
<p><参考書></p> <p>毎回必要な文献を指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>割り当てられた課題の発表（50%）、討論への貢献（50%）を総合して評価する。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書学特研 I a	焼山 満里子
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 新約聖書、初期キリスト教における神学議論をテキスト、新約聖書、初期教父の著作を通して学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> テキストを分担して講読し、そこで行われている議論を批判、検討する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション及びペイゲルス序論 2. ペイゲルス第一章「神の国は近づいた」37-63頁 3. ペイゲルス第一章「神の国は近づいた」64-89頁 4. ペイゲルス第一章において引用された新約聖書箇所を検討 5. ペイゲルス第二章「ローマ体制に逆らうキリスト教徒たち」91-113頁 6. ペイゲルス第二章「ローマ体制に逆らうキリスト教徒たち」114-136頁 7. ペイゲルス第二章で引用されていた初期教父の著作検討 8. ペイゲルス第三章「創世記の主題によるグノーシス的解釈の即興変奏曲」137-152頁 9. ペイゲルス第三章「創世記の主題によるグノーシス的解釈の即興変奏曲」153-174頁 10. ペイゲルス第三章で引用されていたグノーシス文献の検討 11. ペイゲルス第四章『「独身者の楽園」回復』175-210頁 12. ペイゲルス第五章「楽園の政治学」211-244頁 13. ペイゲルス第五章「楽園の政治学」245-263頁 14. ローマの信徒への手紙におけるアダムの検討 15. ペイゲルス第六章「自然の本性」265-310頁 	
<p><準備学習等の指示> 各自、テキストを分担し講読を行うので、各回発表担当者は議論の紹介、批判検討を行う。</p>	
<p><テキスト> ペイゲルス『アダムとエバと蛇』ヨルダン社、1993年。各自準備すること。</p>	
<p><参考書> 適宜紹介する。</p>	
<p><学生にする評価（方法・基準）> 発表の準備、議論への貢献等による授業参加、期末レポート。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書学特研 I b	焼山 満里子
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 使徒パウロの伝道活動とパウロ教会について理解を深める。</p>	
<p><授業の概要> テキストを講読、批判検討しつつ、パウロの伝道活動とパウロ教会について学び、新約聖書パウロ書簡、初期キリスト教について学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ミークス序論 3. ミークス第一章 「パウロ的キリスト教の都市環境」 33-64頁 4. ミークス第一章 「パウロ的キリスト教の都市環境」 65-112頁 5. ミークス第二章 「パウロ教会の会員達の社会層」 144-168頁 6. ミークス第二章 「パウロ教会の会員達の社会層」 169-190頁 7. ミークス第三章 「教会の形成」 205-246頁 8. ミークス第三章 「教会の形成」 247-280頁 9. ミークスの方法論の検討 10. ミークス第四章 「統治」 301-334頁 11. ミークス第四章 「統治」 335-360頁 12. ミークス第五章 「祭儀」 370-413頁 13. ミークス第六章 「信仰形態と生活形態」 423-450頁 14. ミークス第六章 「信仰形態と生活形態」 451-471頁 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示> 各自、テキストを分担し講読を行うので、各回発表担当者は議論の紹介、批判検討を行う。</p>	
<p><テキスト> ウェイン・ミークス『古代都市のキリスト教』加山久夫監訳 ヨルダン社、1989年。古本等の入手を勧める。その他は担当者が準備する。</p>	
<p><参考書> 適宜紹介する。</p>	
<p><学生にする評価（方法・基準）> 発表の準備、議論への貢献等による授業参加、期末レポート。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書原典釈義 I a	小河 陽
前期・2単位	<登録条件> 学期ごとに履修できるが、通年で受講することが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>マルコ福音書の幾つかの段落をテキストとして取り上げ、ギリシア語原典釈義の方法を学ぶ。個々のテキストに即して、釈義上の諸問題を学び、神学内容を吟味するよう訓練する。釈義から説教への展開の可能性も模索する。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>始めに釈義の方法論について、幾つかのテキストから学び、その後にマルコ福音書の研究史を概観し、釈義上の諸問題を把握した上で、この段落の釈義に移る。取り上げるテキストを選択的に限定して、各箇所具体的な釈義を行うことで、その都度、問題点の把握と解釈の方向性を確実にすることに努める。</p>	
<p><履修条件></p> <p>ギリシア語の基礎知識を必要とするが、絶対条件とはしない。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回： マルコ 1:21-28（汚れた霊に憑かれた男）で、範例的な釈義方法について学ぶ。</p> <p>第2回： マルコ 2:13-17（レビの召命）で、範例的なテキスト分析方法について学ぶ。</p> <p>第3回： マルコ 4：35-41（湖上の嵐を鎮める）で、範例的なテキスト分析の方法について学ぶ。</p> <p>第4回： マタイ 8：5-13 とルカ 7：1-10 の比較から、共観福音書の相違を学ぶ。</p> <p>第5回： マルコ福音書の研究史を概観して、現代の研究状況と釈義の諸問題を学ぶ。</p> <p>第6回： マルコ 1:1-8（洗礼者ヨハネ）を中心に釈義を行う。</p> <p>第7回： マルコ 1：16-20（弟子召命）を中心に釈義を行う。</p> <p>第8回： マルコ 1:40-45（らい患者の癒し）を中心に釈義を行う。</p> <p>第9回： マルコ 2:23-28（安息日論争）を中心に釈義を行う。</p> <p>第10回： マルコ 3:20-35（バルゼブル論争とイエスの家族）を中心に釈義を行う。</p> <p>第11回： マルコ 4:1-20（種まきの譬え）を中心に釈義を行う。</p> <p>第12回： マルコ 5:21-43（ヤイロの娘とイエスの服に触れる女）を中心に釈義を行う。</p> <p>第13回： マルコ 6:6b-13（弟子の宣教派遣）を中心に釈義を行う。</p> <p>第14回： マルコ 6:30-44（5000人の供食）を中心に釈義を行う。</p> <p>第15回： マルコ 7:1-23（昔の人の言い伝え）を中心に釈義を行う。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>クラスで取り上げるテキストを熟読し、註解書などの文献に目を通しておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Nestle-Aland, Novum Testamentum Graece, 27th edition.</p>	
<p><参考書></p> <p>諸マルコ註解書、その他は授業の中でその都度教員が指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>クラスにおける釈義への積極的な参加度と学期末のレポートにおける習熟度。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書原典釈義 I b	小河 陽
後期・2単位	<登録条件> 学期ごとに履修できるが、通年で受講することが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>共観福音書の幾つかの段落をテキストとして取り上げ、ギリシア語原典釈義の方法を学ぶ。個々のテキストに即して、釈義上の諸問題を学び、神学内容を吟味するよう訓練する。釈義から説教への展開の可能性も模索する。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>前期に引続き、マタイとルカの福音書から取り上げるテキストを選択的に限定し、具体的な釈義を行うことで、問題点の把握と解釈の方向性を確実にする。最初に簡単に、両福音書の概観と釈義上の諸問題を復習する。</p>	
<p><履修条件></p> <p>ギリシア語の基礎知識を必要とするが、絶対条件とはしない。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回： 前期に於ける釈義の問題と方法の要点を整理・復習する。</p> <p>第2回： マタイ 1:18-25（イエスの誕生）を中心に釈義を行う。</p> <p>第3回： マタイ 4:1-11（誘惑物語）を中心に釈義を行う。</p> <p>第4回： マタイ 5:1-12（山上の至福）を中心に釈義を行う。</p> <p>第5回： マタイ 5:17-20（律法について）を中心に釈義を行う。</p> <p>第6回： マタイ 6:25-34（思い悩むな）を中心に釈義を行う。</p> <p>第7回： マタイ 9:14-17（断食問答）を中心に釈義を行う。</p> <p>第8回： マタイ 11：2-19（洗礼者ヨハネとイエス）を中心に釈義を行う。</p> <p>第9回： ルカ 2：8-21（イエス誕生にまつわる羊飼いと天使）を中心に釈義を行う。</p> <p>第10回： 4：16-30（ナザレでのイエス拒絶）を中心に釈義を行う。</p> <p>第11回： 5：1-11（漁師を弟子にする）を中心に釈義を行う。</p> <p>第12回： ルカ 7：36-50（罪深い女の赦し）を中心に釈義を行う。</p> <p>第13回： ルカ 8:26-39（悪霊に憑かれたゲラサ人の癒し）を中心に釈義を行う。</p> <p>第14回： 受難と復活についての釈義的諸問題を取り上げる。</p> <p>第15回： 釈義の方法と可能性について、総括的な反省と展望をする。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>クラスで取り上げるテキストを熟読し、註解書などの文献に目を通しておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Nestle-Aland, Novum Testamentum Graece, 27th edition.</p>	
<p><参考書></p> <p>マタイとルカの注解書、その他は授業の中で、その都度教員が指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>クラスにおける釈義への積極的な参加度と学期末のレポートにおける習熟度。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書原典釈義Ⅱ a	永田 竹司
前期・2単位	<登録条件>原則として通年(a, b)で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>新約聖書を歴史的批判的に釈義する方法論を学ぶことと、それによって得られるテキスト世界の意味と現代における意味展開とをどのように関係づけていくかという解釈学的営みを学ぶこと。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>新約聖書文書の中から一つの文書をテキストとし、聖書学の研究成果を参照しながら、テキストを詳細に分析研究することによって、その思想を考察することを第一義的課題とする。現代のキリスト教、また社会一般にとっていかなる意味を持つかも検討する。形式は学生による発表を中心とし、質疑応答および補足的指導を行う。今回は、「ローマ書1章から8章」をテキストとする。</p>	
<p><履修条件></p> <p>新約ギリシャ語初等文法、新約ギリシャ語テキスト読解の基礎知識が必須。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：聖書学の研究史から見たローマ書（講義）</p> <p>第2回：ローマ書の初めと終わり（1章と15章）。著者、宛先、執筆事情の考察</p> <p>第3回：ローマ書1:8-17の釈義、中心主題をめぐって。</p> <p>第4回：ローマ書1:18-3:20 神の義の啓示の問題をめぐって I その1 1:18-32 異邦人の罪とはなにか。</p> <p>第5回：ローマ書1:18-3:20 神の義の啓示の問題をめぐって II その2 2:1-3:8 ユダヤ人の罪とはなにか。民族宗教における境界線の問題の考察</p> <p>第6回：ローマ書1:18-3:20 神の義の啓示の問題をめぐって III その3 3:9-20 全人類が同様に罪人であるとの人間観の考察</p> <p>第7回：ローマ書3:21-5:11 恵みとしての義の主題をめぐって I その1 3:21-31 キリストの死と信仰の義の普遍性の考察</p> <p>第8回：ローマ書3:21-5:11 恵みとしての義の主題をめぐって II その2 4:1-25 アブラハムの事例と聖書証明の問題</p> <p>第9回：ローマ書3:21-5:11 恵みとしての義の主題をめぐって III その3 5:1-11 義とされた者の現在と将来の主題をめぐって</p> <p>第10回：ローマ書5:12-21 アダムとキリストのタイポロジーの考察</p> <p>第11回：ローマ書6:1-23 キリスト者の生における義認の意味についての考察</p> <p>第12回：ローマ書7:1-25 ユダヤ教対キリスト教の思想的構図 罪と律法の欺瞞 I その1 7:1-6 律法からの解放をめぐって</p> <p>第13回：ローマ書7:1-25 ユダヤ教対キリスト教の思想的構図 罪と律法の欺瞞 II その2 7:7-25 律法と罪と「わたし」：「わたし」のあり方の問題をめぐって。</p> <p>第14回：ローマ書8:1-39 霊によって生きるとは何か I その1 8:1-17 霊によって生きる対古い肉による生き方の対比をめぐって</p> <p>第15回：ローマ書8:1-39 霊によって生きるとは何か II その2 8:18-39 キリスト者の希望：未来的終末論との関係における考察。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>クラスで取り上げる箇所の新約ギリシア語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Nestle-Aland (27th ed.), <i>Novum Testamentum Graece</i> 他の版の新約ギリシア語新約聖書も可。(自分で揃える)</p>	
<p><参考書></p> <p>G・タイセン著、渡辺康磨訳『パウロ神学の心理学的側面』、1990年 宮田光雄著、『権威と服従』、2003年 E・ケーゼマン著、岩本修一訳『ローマ人への手紙』、1980年 James D・G・Dunn, <i>Romans</i> (Word Biblical Commentary), 1988 U・ヴィルケンス著 岩本修一・朴憲郁 訳『ローマ人への手紙』上(1984年)、中(1998年)、下巻 その他は、クラスで適時紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>授業での発表と期末における研究小論文。クラスのための準備、積極的参加、発表および論文における批判力と想像力、論理および表現の明確さ、情報の確かさ等を重要な評価基準とする。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書原典釈義Ⅱb	永田 竹司
後期・2単位	<登録条件>原則として通年(a,b)で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>新約聖書を歴史的批判的に釈義する方法論を学ぶことと、それによって得られるテキスト世界の意味と現代における意味展開とをどのように関係づけていくかという解釈学的営みを学ぶこと。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>新約聖書文書の中から一つの文書をテキストとし、聖書学の研究成果を参照しながら、テキストを詳細に分析研究することによって、その思想を考察することを第一義的課題とする。現代のキリスト教、また社会一般にとっていかなる意味を持つのかも検討する。形式は学生による発表を中心とし、質疑応答および補足的指導を行う。今回は、前期に続き、「ローマ書9章から16章」をテキストとする。</p>	
<p><履修条件></p> <p>新約ギリシャ語初等文法、新約ギリシャ語テキスト読解の基礎知識が必須。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：ローマ書9:1-11:36 人間の不信仰と神の真実をめぐる考察 I その1 9:1-29 神の自由とイスラエルのつまずきの問題</p> <p>第2回：ローマ書9:1-11:36 人間の不信仰と神の真実をめぐる考察 II その2 9:30-10:21 イスラエルのつまずき、選民意識の問題の考察</p> <p>第3回：ローマ書9:1-11:36 人間の不信仰と神の真実をめぐる考察 III その3 11:1-36 神の選びの思想の逆説的意味の考察</p> <p>第4回：ローマ書9:1-11:36 人間の不信仰と神の真実をめぐる考察 IV その4 神の予定と救済論についての諸説の考察</p> <p>第5回：ローマ書12:1-13:14 キリスト者の生活についての勧告の考察 I その1 12:1-21 信仰共同体の形成と倫理</p> <p>第6回：ローマ書12:1-13:14 キリスト者の生活についての勧告の考察 II その2 13:1-14 国家と宗教の関係問題</p> <p>第7回：ローマ書12:1-13:14 キリスト者の生活についての勧告の考察 III その3 信教の自由と国家権力の問題についての歴史的考察</p> <p>第8回：ローマ書14:1-15:13 宗教的慣習の違いとその克服の問題 I その1 14:1-12 異邦人とユダヤ人との慣習の違いに関する問題</p> <p>第9回：ローマ書14:1-15:13 宗教的慣習の違いとその克服の問題 II その2 14:13-23 自由と愛の関係：自由を愛のゆえに行使しない自由の概念をめぐる</p> <p>第10回：ローマ書14:1-15:13 宗教的慣習の違いとその克服の問題 III その3 15:1-13 キリストを模範とする共同体形成の考察</p> <p>第11回：ローマ書15:14-33 ローマ書の歴史的目的をめぐる考察 I その1 パウロの伝道の拠点主義的特徴</p> <p>第12回：ローマ書15:14-33 ローマ書の歴史的目的をめぐる考察 II その2 キリスト教歴史における宣教の社会的構造転換の意味についての考察</p> <p>第13回：ローマ書16:1-27 ローマ教会への個人的挨拶をめぐる I その1 ローマ教会の構成員の特徴と歴史的背景の考察</p> <p>第14回：ローマ書16:1-27 ローマ教会への個人的挨拶をめぐる II その2 初期キリスト教における女性の位置の問題：「ユニア」をめぐる</p> <p>第15回：ローマ書の現代的意味についての考察（総括）</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>クラスで取り上げる箇所ギリシア語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Nestle-Aland (27th ed.), <i>Novum Testamentum Graece</i> 他の版のギリシア語新約聖書も可。(自分で揃える)</p>	
<p><参考書></p> <p>G・タイセン著、渡辺康鷹訳『パウロ神学の心理学的側面』、1990年 宮田光雄著、『権威と服従』、2003年 E・ケーゼマン著、岩本修一訳『ローマ人への手紙』、1980年 James D・G・Dunn, <i>Romans</i> (Word Biblical Commentary), 1988 U・ヴィルケンス著 岩本修一・朴憲郁 訳『ローマ人への手紙』上(1984年)、中(1998年)、下巻 その他は、クラスで適時紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>授業での発表と期末における研究小論文。クラスのための準備、積極的参加、発表および論文における批判力と想像力、論理および表現の明確さ、情報の確かさ等を重要な評価基準とする。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
修士論文指導演習 新約神学 I	焼山 満里子
後期・2単位	<登録条件>新約聖書神学専攻で修論を書く学生
<p><授業の到達目標及びテーマ> 2012年修士論文作成に向けてテーマの選定、参考文献の収集、講読、を行う。</p>	
<p><授業の概要> 新約聖書学の基礎文献を講読しつつ新約聖書学の議論の仕方を学びつつ、同時進行で各自テーマの選定、それに従って参考文献の収集、講読を進め、修士論文作成の方向付けを行う。</p>	
<p><履修条件> 2012年9月に修論を提出予定の学生。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ブルトマン第一章/テーマの選定 3. ブルトマン第二章/テーマについての参考文献収集 4. ブルトマン第三章/テーマについての議論可能性の検討 5. ブルトマン第四章/テーマの見直し 6. ブルトマン第五章/テーマの決定 7. ブルトマン第六章/参考文献表の提出 8. ブルトマン第七章/参考文献の講読 9. ブルトマン第八章/参考文献の要約発表 10. ブルトマン第九章/テーゼの候補提出 11. ブルトマン第十章/テーゼの批判、検討 12. ブルトマン第十一章/テーゼの決定 13. ブルトマン第十二章/第一章執筆 14. ブルトマン第十三章/第一章発表 15. ブルトマン第十四章/総括 	
<p><準備学習等の指示> テキストは毎回分担し講読を行う。</p>	
<p><テキスト> ブルトマン『新約聖書神学 1』新教出版社、1980年</p>	
<p><参考書> 適宜紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表の準備、議論への貢献等による授業参加、期末レポート。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
修士論文指導演習 新約神学Ⅱ	中野 実 焼山 満里子
前期・2単位	<登録条件>新約神学で修論を書く予定の学生
<p><授業の到達目標及びテーマ>今年度前期末に修士論文を提出予定の大学院二年生で、新約聖書神学専攻の学生のための演習。具体的にそれぞれの修士論文の執筆を助けるような学びをしていく。</p>	
<p><授業の概要>論文の準備段階において、それぞれが研究発表をし、担当者、参加学生の質問、意見などを聞きながら、論文を仕上げていくためのクラス。毎回2名の教員が参加するが、それぞれの専門分野を特に担当するものとする。中野実（おもに福音書研究など）、焼山満里子（おもに書簡研究など）。</p>	
<p><履修条件>2011年9月に新約聖書神学専攻で修士論文を提出する予定の学生。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション 論文執筆の手順などについて ② 問題設定の点検 ③ 資料の点検 ④ 題名、目次、議論の枠組みを整える。 ⑤ より明確な問題設定 ⑥ 序論の執筆 ⑦ 研究史 ⑧ 研究史 ⑨ 論文のテーゼ ⑩ 論文のテーゼ ⑪ 議論の組み立て ⑫ 議論の組み立て ⑬ 結論 ⑭ 論文のフォーマットの整理：註、文献表など ⑮ まとめ 	
<p><準備学習等の指示>クラスで指示する。</p>	
<p><テキスト>必要に応じて、クラスで指示する。</p>	
<p><参考書>クラスで指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>クラスへの出席、クラスでの課題への積極的参加などによって、総合的に評価する。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学特講 I a	近藤 勝彦
前期・2単位	<登録条件>学期ごとの登録が可能
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>文化生活や人生観の根本にある「時間の理解」をめぐる時間論を思想史的、ならびに教義学的に考察する。日本人の時間観、ギリシャ的時間観、あるいは近代人の時間観に対し、聖書的・神学的な時間観の特質を明らかにする。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>日本人の時間観、ギリシャ的時間観などに次いで、神学上の時間論をアウグスティヌスやバルトの理解などを手がかりにして考察する。</p>	
<p><履修条件></p> <p>学部での神学の基本を収めていれば、組織、聖書の専攻の別を越えて履修可能。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第一回： 時間の経験について 第二回： 古代ギリシャの時間理解（パルメニデス、プラトンなど） 第三回： 聖書的時間観の概略（クルマンの説） 第四回： 近代人の時間観（カント、ヘーゲル、ハイデッガー） 第五回： 日本人の時間観（加藤周一の説） 第六回： 日本人の時間観（波多野精一、西田幾多郎） 第七回： 中間の総括 第八回： アウグスティヌスの『告白』11章による「時間の始め」 第九回： カール・バルトのアウグスティヌス批判 第十回： 「時間と永遠」「永遠の今」「超時間」などの問題 第十一回： 「時間の終り」について 第十二回： トマス・トランスの時間論 第十三回： ユルゲン・モルトマンの時間論 第十四回： 時間論におけるキリスト論と救済史 第十五回： 全体の総括</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>参考文献に実際に触れながら、参加すること</p>	
<p><テキスト></p> <p>アウグスティヌス『告白』、カール・バルト『教会教義学』（創造論）、モルトマン『創造における神』</p>	
<p><参考書></p> <p>その他の参考文献はその都度提示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>授業の出席状況とレポートの提出内容を総合して評価する。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学特講 I b	近藤 勝彦
後期・2単位	<登録条件>学期ごとの履修が可能
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「伝道」(Mission) について、その意味、位置、目的などの組織神学的、教義学的な理解を得ること。</p>	
<p><授業の概要> 「伝道」(Mission) についての組織神学的考察を神学史的に扱っていく。それにより従来の神学的欠陥を補充することを試みる。</p>	
<p><履修条件> 学部で神学の基本的学習をした者で、「伝道」(Mission) に関心のある者</p>	
<p><授業計画> 第一回：組織神学・教義学における「伝道」の不在 第二回：「伝道の神学」の嚆矢マルティン・ケーラーの場合 第三回：ケーラーの伝道の神学とその限界 第四回：エルンスト・トレルチの伝道の視点によるドイツ教会批判 第五回：トレルチの「文化論的伝道論」とその限界 第六回：エーミル・ブルナーにおける「神学のもう一つの課題」 第七回：ブルナーにおける「伝道的神学」の提唱と未確立 第八回：カール・バルトにおけるヨーロッパの教会と神学の批判 第九回：バルトにおける伝道理解の和解論的構造とその問題点 第十回：バルト以後をどう構想するか 第十一回：ファン・リューラーとオランダ神学の特徴 第十二回：ファン・リューラーのアポストラートの神学とその問題点 第十三回：1970年代以降における「伝道の神学」の未確立、モルトマンにおける事柄の喪失 第十四回：ヴォルフハルト・パネンベルクのバルト批判とその後の未確立 第十五回：総括・伝道の教義学的考察をめぐって</p>	
<p><準備学習等の指示> テキストを読んで、参加すること</p>	
<p><テキスト> 近藤勝彦『伝道の神学』(教文館、2002年、2007年以降オンデマンド)(学生各自で入手する)</p>	
<p><参考書> 授業でその都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業参加と提出レポートの内容を総合して評価する。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学特研 I	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件>修士論文指導演習・組織 I と併せて通年で履修（登録）すること
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>博士課程前期課程で組織神学を専攻する者のため、修士論文執筆の準備を、論文の主題発見および演習による組織神学的思考の訓練を通して行なう。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>学生各自が自らの問題意識を発表することから始めて、修士論文の主題を明確にしていく。 E・ブルンナーの『教義学』Ⅲ（下）の演習形式による精読（終末論）。</p>	
<p><履修条件></p> <p>組織神学専攻で、組織神学または実践神学の分野で修士論文を 2012 年度に提出する者は必修。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第 1 回 オリエンテーション・学生による問題意識（関心領域）の発表 第 2 回 演習（テキスト 185～194 頁：「希望としての信仰」） 第 3 回 演習（テキスト 200～211 頁：「キリスト教的希望に対する不信仰からの異議」） 第 4 回 演習（テキスト 212～217 頁：「神の国と永遠の生命」） 第 5 回 学生による問題意識の発表（特定の思想家または主題項目の提示） 第 6 回 演習（テキスト 218～226 頁：「歴史の意味と目標としての神の国」） 第 7 回 演習（テキスト 227～233 頁：「永遠についてのキリスト教的理解」） 第 8 回 演習（テキスト 234～242 頁：「死の秘義」） 第 9 回 演習（テキスト 243～248 頁：「世を去ることとキリストのもとにあること」） 第 10 回 学生による修士論文主題の発表および主要文献の選定 第 11 回 演習（テキスト 249～256 頁：「再臨」） 第 12 回 演習（テキスト 265～272 頁：「復活」） 第 13 回 演習（テキスト 273～284 頁：「万人の和解と世界審判」） 第 14 回 演習（テキスト 285～308 頁：「完成」） 第 15 回 学生による修士論文計画の最終的発表</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>演習では必ず事前にテキストに目を通して、質問やコメントを用意してくること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>エーミル・ブルンナー、『教義学』Ⅲ（下）、（大村修文訳）、『ブルンナー著作集』第 5 巻（教文館）所収。</p>	
<p><参考書></p> <p>授業の中で、必要に応じて紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>三分の二以上の出席を前提として、演習での発表と授業への参加度の総合によって評価する。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学演習Ⅱ a	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件> 組織神学演習Ⅱ b と通年で履修（登録）すること
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>組織神学関係の重要著作を精読することを通して、対象となる思想家の神学思想の世界を理解し、さらには、それを手がかりにして、神学的思考能力を養うことを目的とする。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>二〇世紀最大の神学者の一人、カール・バルトの『教会教義学』の、演習形式による精読を通して、その思想の内容と特色を理解する。今回は創造論を扱う。</p>	
<p><履修条件></p> <p>(なし)</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション、およびバルトの思想の概要の紹介</p> <p>第2回 テキスト 3～38 頁：創造者なる神を信じる信仰①限定的・否定的意義</p> <p>第3回 同 38～73 頁：同②積極的意義</p> <p>第4回 同 75～109 頁：創造と契約①創造、歴史、創造の歴史(1)創造と歴史</p> <p>第5回 同 109～137 頁：同①創造、歴史、創造の歴史(2)創造の歴史</p> <p>第6回 同 137～171 頁：同①創造、歴史、創造の歴史(3)史実性の問題</p> <p>第7回 同 172～201 頁：同②契約の外的根拠としての創造(1)創世記 1：1～2 の講解</p> <p>第8回 同 201～214 頁：同②契約の外的根拠としての創造(2)創世記 1：3 の講解</p> <p>第9回 同 214～244 頁：同②契約の外的根拠としての創造(3)創世記 1：3～5 の講解</p> <p>第10回 同 244～260 頁：同②契約の外的根拠としての創造(4)創世記 1：6～8 の講解</p> <p>第11回 同 260～285 頁：同②契約の外的根拠としての創造(5)創世記 1：9～13 の講解</p> <p>第12回 同 285～306 頁：同②契約の外的根拠としての創造(6)創世記 1：14～19 の講解</p> <p>第13回 同 306～340 頁：同②契約の外的根拠としての創造(7)創世記 1：14～31 の講解</p> <p>第14回 同 340～377 頁：同②契約の外的根拠としての創造(8)創世記 1：14～31 の講解 (「神のかたち」の問題)</p> <p>第15回 同 377～388 頁：同②契約の外的根拠としての創造(9)創世記 1：14～31 の講解 (糧の問題)</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>必ず事前にテキストに目を通し、質問やコメントを用意してくること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>カール・バルト、『教会教義学・創造論Ⅰ／1・創造の業<上>』（吉永正義訳、新教出版社〔オンデマンド〕）。</p>	
<p><参考書></p> <p>授業の中で、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>三分の二の出席を前提として、発表と授業への参加度、期末のレポートによる。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学演習Ⅱ b	神代 真砂実
後期・2単位	<登録条件> 組織神学演習Ⅱ a と通年で履修（登録）すること
<p><授業の到達目標及びテーマ> 組織神学関係の重要著作を精読することを通して、対象となる思想家の神学思想の世界を理解し、さらには、それを手がかりにして、神学的思考能力を養うことを目的とする。</p>	
<p><授業の概要> 二〇世紀最大の神学者の一人、カール・バルトの『教会教義学』の、演習形式による精読を通して、その思想の内容と特色を理解する。今回は前期に続いて創造論を扱う。</p>	
<p><履修条件> (なし)</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 テキスト（上巻）388～416頁：創造と契約②契約の外的根拠としての創造(10)創世記2：1～3の講解</p> <p>第2回 同 417～437頁：同③創造の内的根拠としての契約(1)創世記2：4～7の講解</p> <p>第3回 同 437～456頁：同③創造の内的根拠としての契約(2)創世記2：4～7の講解（人間の創造の問題）</p> <p>第4回 同 456～481頁：同③創造の内的根拠としての契約(3)創世記2：8～17の講解</p> <p>第5回 同 481～507頁：同③創造の内的根拠としての契約(4)創世記2：8～17の講解（禁止命令の問題）</p> <p>第6回 同 507～528頁：同③創造の内的根拠としての契約(5)創世記2：8～17の講解（「善悪の知識」の問題）</p> <p>第7回 同 528～557頁：同③創造の内的根拠としての契約(6)創世記2：18～25の講解</p> <p>第8回 同 558～586頁：同③創造の内的根拠としての契約(7)創世記2：18～25の講解（「男と女」の問題）</p> <p>第9回 同 587～607頁：同③創造の内的根拠としての契約(8)創世記2：18～25の講解（新約との関連で）</p> <p>第10回 テキスト（下巻）3～31頁：創造者なる神の肯定①よき業としての創造</p> <p>第11回 同 32～72頁：同②実在化としての創造</p> <p>第12回 同 73～97頁：同③義認としての創造(1)基礎、および確認・凌駕として</p> <p>第13回 同 97～119頁：同③義認としての創造(2)完全さ・決定性</p> <p>第14回 同 119～150頁：同③義認としての創造(3)哲学への批判</p> <p>第15回 同 150～172頁：同③義認としての創造(4)キリスト教信仰と哲学との相違</p>	
<p><準備学習等の指示> 必ず事前にテキストに目を通し、質問やコメントを用意してくること。</p>	
<p><テキスト> カール・バルト、『教会教義学・創造論Ⅰ／1・創造の業<上>』（吉永正義訳、新教出版社〔オンデマンド〕）および『教会教義学・創造論Ⅰ／2・創造の業<下>』（吉永正義訳、新教出版社〔オンデマンド〕）。</p>	
<p><参考書> 授業の中で、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 三分の二の出席を前提として、発表と授業への参加度、期末のレポートによる。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
信条学	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件>原則としてM1が対象となる。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 歴史的教会の生み出した諸信条の特色を学ぶ。また教義学の項目に沿って信条の神学を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 最初は古代教会の基本信条を取り上げ、次いで宗教改革期の信条を顧みる。なお授業の後半でロールスの参考書の各項目を一つずつ読んでいく。</p>	
<p><履修条件> 原則としてM1が対象だが、大学院博士課程前期・後期に在籍している者は誰でも履修できる。</p>	
<p><授業計画> 第1回：信条・信仰告白とは教会にとって何を意味するかを考察する。 第2回：使徒信条を学ぶ。またロールスの参考書「啓示、神の言葉、伝統」を読む。 第3回：ニケア・コンスタンティノポリス信条を学ぶ。またロールスの参考書「神の本性と三位一体論」の項目を読む。 第4回：アタナシオス信条を学ぶ。またロールスの参考書「創造と摂理」の項目を読む。 第5回：カルケドン信条を学ぶ。またロールスの参考書「人間と罪」の項目を読む。 第6回：ルター大・小教理問答を学ぶ。またロールスの参考書「恵みの契約と和解」の項目を読む。 第7回：アウグスブルク信仰告白を学ぶ。またロールスの参考書「キリスト論とカルヴァン主義的な外部」の項目を読む。 第8回：ジュネーヴ教会信仰問答を学ぶ。またロールスの参考書「義認と信仰」の項目を読む。 第9回：フランス信仰告白、ベルギー信仰告白を学ぶ。またロールスの参考書「聖化と悔改め」の項目を読む。 第10回：第一・第二スイス信仰告白を学ぶ。またロールスの参考書「選びと棄却」を読む。 第11回：スコットランド信仰告白を学ぶ。またロールスの参考書「教会とそのしるし」の項目を読む。 第12回：ハイデルベルク信仰問答を学ぶ。またロールスの参考書「御言葉と聖礼典」の項目を読む。 第13回：ドルト信仰規準を学ぶ。またまたロールスの参考書「神の言葉の二様態」の項目を読む。 第14回：ウエストミンスター信仰告白を学ぶ。ロールスの参考書「洗礼」の項目を読む。 第15回：バルメン宣言を学ぶ。またロールスの参考書「聖餐」の項目を読む。</p>	
<p><準備学習等の指示> 前もってその時の信条のテキストに目を通しておくとよい。</p>	
<p><テキスト> 各自求めること。また授業内で必要な資料をそのつど配付する。 『信条集 前後篇』新教出版社、1994年</p>	
<p><参考書> 研究室にて希望者に訳者割引価格で頒布する。 J・ロールス『改革教会信仰告白の神学』一麦出版社、2009年</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席と授業での発表、レポートを総合的に評価する。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
修士論文指導演習 組織神学 I	近藤 勝彦 芳賀 力
後期・2単位	<登録条件>組織神学で修士論文を書く者
<p><授業の到達目標及びテーマ> 組織神学の神学書の読み方、論文の書きを演習をとして身に付けること</p>	
<p><授業の概要> 各自の論文テーマ、文献を追求しながら、演習としてルターの神学討論を学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 組織神学で修士論文を提出する者には必須である。</p>	
<p><授業計画> 第1回：各自が予定している修士論文のテーマを発表し、演習発表のアレンジを行う 第2回：『ルター神学討論集』の序論を二人で発表する 第3回：第一章を二人で発表 第4回：第二章を二人で発表 第5回：第三章を二人で発表 第6回：第四章を二人で発表 第7回：第五章を二人で発表 第8回：第六章を二人で発表 第9回：第七章、第八章を二人で発表 第10回：第九章、第十章を二人で発表 第11回：第十一章、第十二章を二人で発表 第12回：第十三章を二人で発表、各自の論文との取り組みの発表 第13回：各自の論文との取り組みの発表（三人） 第14回：各自の論文との取り組みの発表（三人） 第15回：まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 各自の発表の時だけでなく、他者の発表のテキストを読み、討論に参加すること。</p>	
<p><テキスト> マルティン・ルター『ルター神学討論集』（金子晴勇訳、教文館、2010年）（学生各自で購入）</p>	
<p><参考書> 各自の研究主題により、指導教授より指示を受けること。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業出席、討論への参加、各自の発表を総合して評価する。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
修士論文指導演習 組織神学Ⅱ	近藤 勝彦
前期・2単位	<登録条件>組織神学ならびに実践学で修士論文を提出する条件を満たしている者
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>各自論文のテーマを決めて取り組み、その都度の研究段階で発表をしながら修士論文の完成を目指す。論文の書き方としての技術的な指導も行う。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>各自の論文のための研究を途中段階で発表し、問題点、改善点などを指摘する。他の人の論文経過発表を聞くときにも、発表に対する質疑や討論に参加する。</p>	
<p><履修条件></p> <p>組織神学ならびに実践神学で本年9月に修士論文を提出する予定の者には必須である。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回： 論文を書くに際しての概略的な指導、ならびに各自の発表の順序などを決める。</p> <p>第2回： ①—③までの発表（1度目）、それぞれのテーマならびに文献、目下の取り組みの発表</p> <p>第3回： ④—⑥までの発表（1度目）</p> <p>第4回： ⑦—⑨までの発表（1度目）</p> <p>第5回： ①—②の発表（2度目）、論文の構成、目次も発表する</p> <p>第6回： ③—④の発表（2度目）</p> <p>第7回： ⑤—⑥の発表（2度目）</p> <p>第8回： ⑦—⑧の発表（2度目）</p> <p>第9回： ⑨—①の発表（2、3度目）主張の打ち出し方、先行研究の扱い</p> <p>第10回： ②—③の発表（3度目）</p> <p>第11回： ④—⑤の発表（3度目）</p> <p>第12回： ⑥—⑦の発表（3度目）</p> <p>第13回： ⑧—⑨の発表（3度目）</p> <p>第14回： 論文完成を目指して、引用や注などの注意</p> <p>第15回： 目次、引用、注、文献表などの点検</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>それぞれの指導教授と相談の上、自己の論文のための研究を進めておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>それぞれの主題に必要な文献。</p>	
<p><参考書></p> <p>第一次資料とともに、それぞれに必要な第二次参考文献を選定すること。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>出席状況、議論への参加状況によって評価する。論文を提出できない場合は成績は出ない。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教理史演習 I a	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件> 組織神学専攻者の履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>「洗礼、聖餐、教会と職務―中世・宗教改革から現代まで」。主題についての現代神学的学びの後、第一次史料を読みながら、各時代の諸教理を検討し、それらの現代的意義を論じる。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>前期では「洗礼と聖餐」の教理の発展を扱う。先ず WCC の「リマ文書」の洗礼と聖餐の合意を学ぶ。中世・宗教改革時代から近代の諸教派、そして日本基督教団の信仰告白や礼拝式文に表現された教理を検討する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第 1 回：コースの紹介。履修者との導入討議。 第 2 回：発表（一） 「リマ文書」の「洗礼」について。（学生 2～3 名） 第 3 回：発表（二） 「リマ文書」の「聖餐」について。（学生 2～3 名） 第 4 回：資料研究（一） 中世の洗礼と聖餐論 1（第四ラテラノ公会議、その他公式教令文書） 第 5 回：資料研究（二） 同上 2（枢機卿カジェタン、S. プリエリアス、C. ヘーン） 第 6 回：資料研究（三） 宗教改革の洗礼と聖餐論 1（ルターとルター派の「一致信条書」他） 第 7 回：資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、布林ガーと「第二スイス信仰告白」） 第 8 回：資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白。「ハイデルベルク信仰問答」） 第 9 回：資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他） 第 10 回：資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言） 第 11 回：資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後の近・現代カトリックの諸教令など） 第 12 回：資料研究（九） ピューリタニズムの洗礼と聖餐論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」、「ロンドン宣言」） 第 13 回：資料研究（十） メソディズムの洗礼と聖餐論（J. ウェスレーと「宗教箇条」） 第 14 回：資料研究（十一） 日本の諸教派の洗礼と聖餐論 1（改革―長老派系、会衆派系、メソディスト系、バプテスト系、その他） 第 15 回：資料研究（十二） 同上 2（日本基督教団の「口語式文」における洗礼と聖餐理解、まとめ）</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>講義形式で第一次資料を読むので、予習よりも復習を重視すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>『洗礼・聖餐・職務―教会の見える一致をめざして』（教団出版局）。A.E. マッグラース『宗教改革の思想』（教文館）。</p>	
<p><参考書></p> <p>授業中に指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>1. 発表を除き、平生は資料研究を中心なので、積極的に質疑応答に参加すること。2. 期末には、各自洗礼と聖餐のテーマについて、興味のある二つの異なる人物、運動の教理を取り上げ、第一次史料を分析し比較・検討せよ。現代神学と実践の立場からそれら教理の意義をレポートで論ぜよ。（分量は、400 字詰めで 25 枚以内）。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教理史演習 I b	棚村 重行
後期・2単位	<登録条件> 組織神学専攻者の履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「洗礼、聖餐、教会と職務－中世・宗教改革から現代まで」。主題についての現代神学的学びの後、第一次史料を読みながら、各時代の諸教理を検討し、それらの現代的意義を論じる。</p>	
<p><授業の概要> 後期では「教会と職務」の教理の発展を扱う。先ずWCCの「リマ文書」等の教会と職務の合意を学ぶ。中世・宗教改革時代から近代の諸教派、そして日本基督教団の信仰告白や礼拝式文に表現された教理を検討する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：コース紹介。履中者との導入討議。 第2回：発表（一） 「教会」についての現代の教理論文を読む。（学生2～3名） 第3回：発表（二） 「リマ文書」の「職務」について。（学生3～4名） 第4回：資料研究（一） 中世の教会と職務論1（中世の教会と職務への公式教令文書） 第5回：資料研究（二） 同上 2（トマス・アキナス、ヤン・フス、教皇ピウス二世等） 第6回：資料研究（三） 宗教改革の教会と職務論1（ルターとルター派の「一致信条書」他） 第7回：資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、布林ガーと「第二スイス信仰告白」） 第8回：資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白、「ハイデルベルク信仰問答」） 第9回：資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他） 第10回：資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言） 第11回：資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後の近・現代のカトリックの諸教令など） 第12回：資料研究（九） ピューリタニズムの教会と職務論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」、「ロンドン宣言」） 第13回：資料研究（十） メソディズムの教会と職務論（J.ウェスレーと「宗教箇条」） 第14回：資料研究（十一） 日本の諸教派の教会と職務論1（改革－長老派系、会衆派系、メソディスト系、バプテスト系、その他） 第15回：資料研究（十二） 同上 2 日本基督教団の「口語式文」における教会と職務理解、まとめ。</p>	
<p><準備学習等の指示> 講義形式で第一次資料を読むので、予習よりも復習を重視すること。</p>	
<p><テキスト> 『洗礼・聖餐・職務－教会の見える一致をめざして』（教団出版局）。A.E.マクグラース『宗教改革の思想』（教文館）。</p>	
<p><参考書> 授業中に指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 1. 発表を除き、平生は資料研究を中心なので、積極的に質疑応答に参加すること。2. 期末には、各自教会と職務のテーマについて、興味のある二つの異なる人物、運動の教理を取り上げ、第一次史料を分析し比較・検討せよ。そして現代神学と実践の立場から教理の意義をレポートで論ぜよ。（分量は、400字詰め25枚以内）。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教会史特講 I a	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件> 組織神学専攻者が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「日米欧比較神学思想史」。講義と質疑応答により、近代・現代の日本キリスト教神学思想史の特質を欧米教会のそれら比較しつつ、歴史神学的に理解する。</p>	
<p><授業の概要> 前期では、先ず従来の神学思想史研究の方法を批判する。次に日米欧の神学思想家たちの代表的なテキストを講義により分析する。今期は、十八～十九世紀後半までの各国思想家を取り上げる。</p>	
<p><履修条件> 組織神学専攻者が履修することが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：コースの紹介。予備講義「国際－教会関係史的視点とはなにか」。</p> <p>第2回：講義（一） 日米教会史の研究史（大内三郎、石原謙、S. E. オールストローム）</p> <p>第3回：講義（二） 日米プロテスタント神学思想史解釈史（熊野義孝、古屋安雄、オールストローム）</p> <p>第4回：講義（三） 日米教会史の結合点としての「日本基督公会」運動と対抗運動について。</p> <p>第5回：資料分析（一） 十七世紀英米の改革派－ピューリタン神学（T. フッカー）</p> <p>第6回：資料分析（二） 十八世紀英米メソヂストおよび改革派－ピューリタン神学（J. エドワーズ）</p> <p>第7回：資料分析（三） 十九世紀の米国の新派カルヴァン主義神学（N. W. テイラー）</p> <p>第8回：資料分析（四） 日米の新派カルヴァン主義神学（E. A. パーク、新島襄）</p> <p>第9回：資料分析（五） 十九世紀後半の米国の旧派カルヴァン主義神学（C. ホッジ）</p> <p>第10回：資料分析（六） 十九世紀後半の日本の調停的神学（植村正久）</p> <p>第11回：資料分析（七） 十九世紀前半の米国の合理主義的自由主義神学（W.E. チャニング）</p> <p>第12回：資料分析（八） 十九世紀後半の日本の合理主義的自由主義神学（金森通倫）</p> <p>第13回：資料分析（九） 十九世紀前半のドイツ・ロマン主義神学（シュライエルマッヘル）</p> <p>第14回：資料分析（十） 十九世紀前半の米国のロマン主義的自由主義神学（エマーソン、ブッシュネル）</p> <p>第15回：資料分析（十一） 十九世紀後半の日本のロマン主義的自由主義神学（海老名弾正）</p>	
<p><準備学習等の指示> 特にない。</p>	
<p><テキスト> S. Ahlstrom, <i>Theology in America</i> (1967)。他にコピー資料を配付する。</p>	
<p><参考書> S. E. オールストローム『アメリカ神学思想史入門』（教文館、1990）。熊野義孝『日本キリスト教神学思想史』（新教出版社、1968）。</p>	
<p><学生に対する評価></p> <p>1. 学期末に、欧米の神学思想家一名と、日本の思想家の一人を選択し、彼らの神学思想を比較し、「国際－教会関係史」を踏まえたテキストの分析を行い、レポートを作成する。</p> <p>2. 期末レポートの分量は、400字詰め原稿用紙で25枚程度とする。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教会史特講 I b	棚村 重行
後期・2単位	<登録条件> 組織神学専攻者が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「日米欧比較神学思想史」。講義と質疑応答により、近代・現代の日本キリスト教神学思想史の特質を欧米教会のそれら比較しつつ、歴史神学的に理解する。</p>	
<p><授業の概要> 後期では、十九世紀後半から二十世紀の日米欧の神学思想家たちの代表的なテキストを講義により分析する。</p>	
<p><履修条件> 組織神学専攻者が履修することが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回： コースの紹介。 後期参加者へのガイダンス。 第2回： 資料分析（一） 十九世紀米国の高教会神学（P. シャフ） 第3回： 資料分析（二） 同上（ネヴィン） 第4回： 資料分析（三） 二十世紀前半の日本の高教会神学（逢坂元吉郎） 第5回： 資料分析（四） 十九世紀後半の米国の保守主義神学（C. P. クラウス） 第6回： 資料分析（五） 二十世紀後半の日本の保守主義神学（岡田稔） 第7回： 資料分析（六） 二十世紀の米国社会実践の神学（ラウシェンブッシュ） 第8回： 資料分析（七） 同上 日本の社会実践の神学（賀川豊彦） 第9回： 資料分析（八） 同上 （中島重と SCM 運動） 第10回： 資料分析（九） 二十世紀の欧米新正統主義神学（K. バルト、H.R. ニーバー） 第11回： 資料分析（十） 二十世紀の日本における新正統主義神学（熊野義孝） 第12回： 資料分析（十一） 同上 （北森嘉蔵） 第13回： 資料分析（十二） 二十世紀の米国福音主義神学（D. ブローシュ） 第14回： 資料分析（十三） 同上 日本の福音主義神学（佐藤敏夫） 第15回： まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 特にない。</p>	
<p><テキスト> S. Ahlstrom, <i>Theology in America</i> (1967)。他にコピー資料を配付する。</p>	
<p><参考書> S. E. オールストローム『アメリカ神学思想史入門』（教文館、1990）。熊野義孝『日本キリスト教神学思想史』（新教出版社、1968）。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 1. 学期末に、欧米の神学思想家一名と、日本の思想家の一人を選択し、彼らの神学思想を比較し、「国際－教会関係史」を踏まえたテキストの分析を行い、レポートを作成する。 2. 期末レポートの分量は、400字詰め原稿用紙で25枚程度とする。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教理史特講 I a	関川 泰寛
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教教理史の主題を定めて、一次史料に基づいて講義する。一次史料の読解の能力を高める</p>	
<p><授業の概要> テキストに沿って、古代教会の三位一論、キリスト論、救済論、聖書論、教会論などを学ぶ。前期には、使徒教父からニカイア会議までを扱う。必要に応じて、一次史料を読んで、発表してもらう。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画> 第1回：教父時代の背景、 第2回：伝統と書物 第4回：エイレナイオスを読む 第5回：使徒教父と弁証家の三一論 第6回：ユスティノスを読む 第7回：三世紀の三一論の展開 第8回：テルトゥリアヌスを読む 第9回：アレキサンドリア学派の神学の特徴 第10回：オリゲネス『諸原理について』のキリスト論と三位一体論 第11回：人間と贖罪 第12回：古代教会における教会論と職制 第13回： sacrament理解と洗礼、聖餐の教理の展開 第14回：ニカイア神学とアレイオスの教説 第15回：全体に関わる質疑応答とディスカッション。</p>	
<p><準備学習等の指示> 古代教会史の知識を整理しておくこと。</p>	
<p><テキスト> J.N.D.ケリー『初期キリスト教教理史(上)』（一麦出版社、2500円）、各自用意すること。</p>	
<p><参考書> ペリカン『キリスト教の伝統』1巻（教文館）、その他は、都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスでの貢献と小論文</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教理史特講 I b	関川 泰寛
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教教理史の主題を定めて、一次史料に基づいて講義する。一次史料の読解の能力を高める</p>	
<p><授業の概要> テキストに沿って、古代教会の三位一論、キリスト論、救済論、聖書論、教会論などを学ぶ。後期には、ニカイア会議以降の時代の教理を扱う。必要に応じて、一次史料を読んで、発表してもらう。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画> 第1回：アタナシオス神学 第2回：4世紀の三一論 第3回：カッパドキア教父の神学 第4回：ナジアンゾスのグレゴリオスを読む 第5回：ヒラリウス『三位一体論』と西方における三位一体論 第6回：4世紀のキリスト論 第7回：キリスト論論争とその決着 第8回：聖霊論の展開 第9回：バシレイオスを読む 第10回：アウグスティヌス『三位一体論』を読む。 第11回：人間の墮落と神の恩寵 第12回：救済論の展開 第13回：教会論 第14回：終末論 第15回：全体のまとめと質疑。</p>	
<p><準備学習等の指示> 古代教会史の知識を整理しておくこと。</p>	
<p><テキスト> J.N.D.ケリー『初期キリスト教教理史（下）』（一麦出版社、2500円）、各自用意すること</p>	
<p><参考書> ペリカン『キリスト教の伝統』1巻（教文館）、その他は、都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスでの貢献と小論文</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
修士論文指導演習 歴史神学 I	関川 泰寛
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>修士論文作成のための基礎知識の習得と訓練を行う。特に一次史料と二次史料の読み方、論理的な思考力と文章表現を身につけることを目標とする。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>歴史神学の領域で修士論文提出予定者の指導を行う。論文の中間発表を行い、相互の批評、研鑽を重ねるとともに、研究を深める。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 一次史料の読み方：史料の読解 2 一次史料の分析 3 二次史料の読み方：歴史神学の学術論文の読解 4 二次史料の分析 5 論文の構想 6 論文の表現方法 7 参考文献と注 8 修士論文の中間発表：主題の提示 9 修士論文の中間発表：全体の構成 10 修士論文の中間発表：主題の展開 11 修士論文の中間発表：校正と注 12 歴史神学論文の特色 13 修士論文をめぐる討議：史料の読解と扱い 14 修士論文をめぐる討議：構成と表現 15 総括とまとめ 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>Norman Cantor, How to Study History を復習しておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>特に定めない</p>	
<p><参考書></p> <p>その都度指示する</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>クラスでの貢献、発表</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
修士論文指導演習 歴史神学Ⅱ	関川 泰寛
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>修士論文作成のための基礎知識の習得と訓練を行う。特に一次史料と二次史料の読み方、論理的な思考力と文章表現を身につけることを目標とする。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>歴史神学の領域で修士論文提出予定者の指導を行う。論文の中間発表を行い、相互の批評、研鑽を重ねるとともに、次年度の論文作成のための基礎作業と修士論文の課題の研究を深める。</p>	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 歴史神学論文作成のための基礎知識の復習 2 論文の構想と史料蒐集 3 参考文献探索と読み方 4 一次史料の蒐集と整理 5 一次史料の分析と読解 6 二次史料の蒐集と整理 7 論文作成の実際と表現能力の向上 8 修士論文作成に向けて：目次と主題の提示 9 修士論文作成の具体化：全体の構成 10 修士論文の中間発表：主題の展開 11 修士論文の中間発表：論文の表現力の修得 12 論文作成に関する討議 13 修士論文中間発表：結論 14 修士論文の内容をめぐる討議 15 総括とまとめ 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>Norman Cantor, How to Study History を復習しておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>特に定めない</p>	
<p><参考書></p> <p>その都度指示する</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>クラスでの貢献、発表、小論文</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
キリスト教教育特講 a	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> ヨーロッパにおける宗教改革運動期と重なるルネサンス後期の教育思想を広く通史的に学ぶ。それによって、プロテスタントの初期キリスト教教育思想をより広いコンテキストの中で把握することを目指す。</p>	
<p><授業の概要> 最初にルネサンス後期の一般的特徴を学んだ後、宗教改革運動の影響下にあったフランス、ドイツ、イギリスのカトリック、プロテスタントの教育思想を、おもに人物中心に順次追っていく。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ルネサンス後期の教育思想－フランスの場合、宗教改革者の場合 2. ルネサンス後期の教育思想－カトリック改革者の場合、イギリスの場合 3. 16世紀フランスの教育 4. モンテーニュの教育思想 5. 16世紀ドイツの教育 6. ルターの人間学と教育思想 7. メランヒトンとシュトゥルムの教育思想 8. カルヴァンの教育思想 9. カシニウスと郷里問答書 10. イエズス会の学校教育 11. イグナティウスの人間形成論 12. 16世紀イギリスのグラマー・スクール 13. 16世紀イギリスの教育思想 14. フランシス・ベーコンの教育思想 15. 全体的考察－総括 	
<p><準備学習等の指示> 毎回の授業の前半に、受講生が順次発表するが、非発表者も次回扱うテキスト箇所を事前に読んでおくこと。</p>	
<p><テキスト> 上智大学中世思想研究所篇、『ルネサンスの教育思想（下）』、教育思想史第VI巻、東洋館出版社、1986年。各自購入しておくこと。</p>	
<p><参考書> 授業時に随時、紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業数の2/3以上の出席を前提として、各自の発表と毎回の授業参加度、およびレポート提出を評価する。</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
キリスト教教育特講 b	朴 憲郁
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>宗教改革後の正統主義派に抗して起こった敬虔主義運動の中に、理論と実践における優れた教育的貢献を見ることができる。近代教育の創始者といわれるモラヴィア派のコメニウスはそこから排出された。それらの経緯と内的関連を考察する。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>敬虔主義運動の中心に立つモラヴィア兄弟団とそこから多大な影響を受けたジョン・ウェスレーの神学思想の特徴を見、それが必然的に教育的展開をもち、日曜学校運動へと繋がることを跡づけ、確認していく。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 敬虔主義と教育一序説 2. ドイツ敬虔主義の創始者 Ph. J. シュペーナーの主張 3. A.H.フランケのキリスト教的人間形成理論 4. N.L.ツィンツェンドルフによる継承と発展－神学と教育－ 5. 教育史におけるモラヴィア派の意義－ヘルンフト居住とその後－ 6. J.ウェスレーとモラヴィア派－出会いとイギリス帰国後の活動－ 7. フランケとウェスレーにおける聖化の強調、「キリスト者の完全」 8. モラヴィア派との訣別－ツィンツェンドルフとの対話－ 9. J.ウェスレーにおける義認と聖化 10. J.ウェスレーのキリスト教教育論 11. J.ウェスレーとキングスウッド・スクール－当時の宗教教育状況－ 12. J.ウェスレーと日曜学校運動 13. アメリカ・メソジスト監督教会の日曜学校運動－初期 14. アメリカ・メソジスト監督教会の日曜学校運動－組織的發展 15. 全体的考察－総括－ 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>毎回の授業の前半に、受講生が順次発表するが、非発表者も次回扱うテキスト箇所を事前に読んでおくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>青山学院大学キリスト教文化研究センター篇、『ジョン・ウェスレーと教育』、ヨルダン社、1999年。各自購入しておくこと。購入困難な場合は、担当講師が調達する。</p>	
<p><参考書></p> <p>授業時に随時、紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>授業数の2/3以上の出席を前提として、各自の発表と毎回の授業参加度、およびレポート提出を評価する。</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
実践神学演習 a	山口 隆康
前期・2単位	<登録条件>教会・キリスト教学校に赴任する意志の明確な者
<p><授業の到達目標及びテーマ> 実践神学演習は、実践神学の3領域、説教学、礼拝学、牧会学を扱う演習である。</p>	
<p><授業の概要> 今年度の実践神学演習は、一般牧会学の領域を扱い、二つのテーマで演習を進める。第1のテーマは、「死と葬りをめぐる諸問題」である。第2のテーマは、「日本の教会における礼拝をめぐる諸問題」である。伝道地日本におけ「葬儀と伝道」「礼拝と伝道」という具合に伝道に関心の軸にして演習を進める。</p>	
<p><履修条件> Eメールで長文を送信できること（携帯メールも可）</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：伝道地としての日本と伝道論（1）、</p> <p>第2回：伝道地としての日本と伝道論（2）、</p> <p>第3回：伝道地としての日本と伝道論（3）</p> <p>第4回：キリスト教と葬儀（1）「葬儀式辞」すなわち「葬儀説教」をめぐる諸課題その1</p> <p>第5回：キリスト教と葬儀（2）「葬儀式辞」すなわち「葬儀説教」をめぐる諸課題その2</p> <p>第6回：キリスト教と葬儀（3）「葬儀式辞」すなわち「葬儀説教」をめぐる諸課題その3</p> <p>第7回：「キリスト教葬儀式」とその周辺の諸課題その1</p> <p>第8回：「キリスト教葬儀式」とその周辺の諸課題その2</p> <p>第9回：「キリスト教葬儀式」とその周辺の諸課題その3</p> <p>第10回：日本という伝道地における主日礼拝（1） 説教をめぐる諸課題</p> <p>第11回：日本という伝道地における主日礼拝（2） 伝道を前進させる説教とは</p> <p>第12回：日本という伝道地における主日礼拝（3） 伝道説教をめぐる諸課題</p> <p>第13回：日本という伝道地における教会の祈り（1） 主日礼拝における「牧会祈祷」の問題</p> <p>第14回：日本という伝道地における教会の祈り（2） 教会における「祈り」（祈祷会・聖書研究会）</p> <p>第15回：日本という伝道地における教会の祈り（3） 信徒の生活における祈り（家庭礼拝・祈りの教育）</p>	
<p><準備学習等の指示> 『伝道の幻に生きる教会建設』山口隆康著、美竹文庫第1巻（『21世紀伝道の幻II』所収）に目を通すこと</p>	
<p><テキスト> 『キリスト者と葬儀』山口隆康著 日本基督教団玉川平安教会出版部刊）</p>	
<p><参考書> 演習の中で必要に応じて紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 原則として演習中の発表による評価。</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
キリスト教教育特研	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>19世紀の北米最大のキリスト教教育学者であったホーレス・ブッシュネルはカルヴァン主義的会衆派教会の牧師であった。後代にも多大な影響を及ぼした彼の代表的著書、『キリスト教養育』をじっくり学んでいく。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>信仰復興運動による回心が強調された19世紀アメリカにおいて、家庭における子供の信仰育成の重要性を説いたブッシュネルのキリスト教教育論とその後の反響を考察して、今日の宗教教育論への妥当性を問う。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 19世紀北米の宗教事情 2. ブッシュネルの生涯と思想 3. テキスト『キリスト教養育』より キリスト教養育とはなにかー信仰育成の必要ー 4. キリスト教養育とはなにかー神の啓示による論証ー 5. だちょうの養育 6. 家庭の有機的一体性 7. 幼児洗礼とその発展と使徒的権威 8. 子どもたちの教会員資格 9. クリスチャンの家系が多数派となる力 10. 養育の開始の時期と場所、養育の主体（親） 11. 神の恵みの手段である身体的養育 12. 信仰の妨げと家庭統治 13. 遊びと娯楽、祝日と日曜日 14. 子どものキリスト教教育、家庭の祈り 15. 全体的把握ー総括ー 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>受講生に一度は発表してもらうが、他の非発表者も毎回、次のテキスト箇所を読んで前理解をもっておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>H. ブッシュネル、(森田三千代訳)、『キリスト教養育』、教文館、2009年</p>	
<p><参考書></p> <p>授業時に随時紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>授業数の2/3以上の出席を前提として、発表と授業時の参加度、およびレポート提出をもって評価する。</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
臨床牧会教育 a	W. ジャンセン
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。</p>	
<p><授業の概要> 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、実際的にカウンセリングを学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画> ＊オリエンテーション ＊院長による精神病理の講義。病院見学。 ＊病棟で患者と面接を行い、ケアを与えることを学ぶ。 ＊面接記録をスーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントをうける。 ＊各学生によるケース提出とディスカッションを行う。</p> <p>第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。</p>	
<p><準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。</p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末テストによって評価する。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
臨床牧会教育 b	W. ジャンセン
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。</p>	
<p><授業の概要> 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、実際的にカウンセリングを学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 臨床牧会教育 a を終えていること。</p>	
<p><授業計画> * 各回、各病棟におもむき、患者と出会い、カウンセリングを行う。 * 面接記録（逐語記録）をつくり、スーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントを得、話し合いをする。 * 各自のケース・レポートをし、ケース・スタディをする。</p> <p>第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。</p>	
<p><準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。</p>	
<テキスト>	
<参考書>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末テストによって評価する。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専攻間共同科目	
日本伝道論演習 a	山口 隆康
前期・2単位	<登録条件>教会・学校に赴任する意志の明確な者
<p><授業の到達目標及びテーマ> 実践神学の中に位置づけられた「日本伝道論」は、説教、礼拝学、牧会学を統合する教会実践を伝道地日本においてどのように進めるかを取り扱う。</p>	
<p><授業の概要> 日本伝道論 a の演習のテーマを「日本伝道と教会建設」「伝道と牧会をめぐる諸問題」とする。 歴史的現実として衰退が進行している日本の教会の直面している諸問題を取り上げ、診断と処方箋を書くための神学的実践を試みる</p>	
<p><履修条件> Eメールで長文を送信できる者（携帯メールも可）</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回： 少子・高齢化社会と信徒の減少の実態について</p> <p>第2回： 信徒の減少する教会の実態の分析について</p> <p>第3回： これまでの「伝道論」を検証する</p> <p>第4回： これまで日本の教会はどのような伝道をしてきたか。</p> <p>第5回： これまでの個教会の伝道論とその実践の総点検</p> <p>第6回： 伝道者論（1） 招聘をめぐる諸問題</p> <p>第7回： 伝道者論（2） 離任（辞任・解任）をめぐる諸問題</p> <p>第8回： 信徒論（1） 信徒とは</p> <p>第9回： 信徒論（2） 役員と役員会について</p> <p>第10回： これからの伝道論（1） 説明理論にしかすぎない伝道論の問題</p> <p>第12回： これからの伝道論（2） 21世紀の伝道を進める伝道論の探求 「エペソ教会的伝道論」</p> <p>第13回： これからの伝道論（3） 21世紀の伝道を進める伝道論の探求 「馬車道伝道論」</p> <p>第14回： これからの伝道論（4） 21世紀の伝道を進める伝道論の探求 「神殿型教会の伝道論の諸問題」</p> <p>第15回： これからの伝道論（5） 21世紀の伝道を進める伝道論の探求 「神殿型からシナゴグ型教会への転換」</p>	
<p><準備学習等の指示> 第1回の演習テーマについて自分の意見をまとめておくこと。</p>	
<p><テキスト> 演習において配布する。</p>	
<p><参考書> 山口隆康著『21世紀伝道の幻』第1巻と第2巻（日本基督教団玉川平安教会出版部刊行）</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 原則として演習中の発表によって評価する。</p>	

専門教育科目・専攻間共同	
アジア伝道論演習 a	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> アジア諸国への福音伝道は、誰がどのような視野と使命によって推進されたのか、また伝道された非キリスト教諸国の人々は独自の文化・宗教・言語圏の中でどのように受容し、反応したのかを知る。同時に、それによる福音伝道の意義と課題への理解を深める。</p>	
<p><授業の概要> 伝道(宣教)学とは何かを序論として解説した後、一国に絞らず、むしろテキストに沿って、東北・東南アジア諸国におけるキリスト教と伝道の足跡を、その文化と歴史と共に概観する。そのことが、日本伝道の特色とあり方を自覚・反省する素材となることを願う。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序説1ー伝道(宣教)学とは何かー 2. 序説2ーアジア・キリスト教伝道論ー (以下、3～14まで学生発表と講義) 3. 韓国のキリスト教 初期とカトリック教会 4. 韓国のキリスト教 プロテスタント教会 5. 中国のキリスト教 初期とカトリック教会 6. 中国のキリスト教 プロテスタント教会 7. 台湾のキリスト教 初期とカトリック教会 8. 台湾のキリスト教 プロテスタント教会 9. 香港のキリスト教 10. フィリピンのキリスト教 11. タイのキリスト教 12. マレーシアのキリスト教 13. ミャンマー、カンボジアのキリスト教 14. ベトナム、ラオスのキリスト教 15. アジア伝道の反省と展望(講義) 	
<p><準備学習等の指示> 指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。</p>	
<p><テキスト> 『アジア・キリスト教の歴史』、日本基督教団出版局編、1991年 初版、重版。今絶版のため、プリント配布など、授業時にテキスト使用について指示する。</p>	
<p><参考書></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 『アジア・キリスト教史[1]』、1989 三版、2. 『アジア・キリスト教史[2]』、1985年 初版、重版、教文館。 <p>その他、授業時に随時紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業時の発表、参加度、学期末レポートなどによって評価する。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・専攻間共同	
アジア伝道論演習 b	朴 憲郁
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>前期と同様、アジア諸国への福音伝道は、誰がどのような視野と使命によって推進されたのか、また伝道された非キリスト教諸国の人々は独自の文化・宗教・言語圏の中でどのように受容し、反応したのかを知る。同時に、それによる福音伝道の意義と課題への理解を深める。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>アジアのキリスト教について概観した後、序論として解説した後、前期に続いて東南アジア諸国のキリスト教と伝道の足跡を、その文化と歴史と共に概観する。そのことが、日本伝道の特色とあり方を自覚・反省する素材となることを願う。他の諸宗教との関係をも見る。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アジアのキリスト教について その1 (講義) 全体的考察 2. アジアのキリスト教について その1 (講義) 個別的・事例的考察 (以下、3～14まで学生発表および講義) 3. シンガポールのキリスト教 4. インドネシアのキリスト教 その1 初期とカトリック教会 5. インドネシアのキリスト教 その2 初期とプロテスタント教会 6. インドのキリスト教 その1 近代以前の歴史 7. インドのキリスト教 その2 近現代の歴史 8. スリンランカのキリスト教 9. バングラディシュのキリスト教 10. パキスタン・アフガニスタンのキリスト教 11. ブータン・ネパールのキリスト教 12. チベット・シッキムのキリスト教 13. オーストラリアのキリスト教 14. ニュージーランドのキリスト教 15. 東南アジアのキリスト教を回顧して (講義) 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>『アジア・キリスト教の歴史』、日本基督教団出版局編、1991年 初版、重版。今絶版のため、プリント配布など、授業時にテキスト使用について指示する。</p>	
<p><参考書></p> <p>1. 『アジア・キリスト教史[1]』、1989 三版、2. 『アジア・キリスト教史[2]』、1985年 初版、重版、教文館。その他、授業時に随時紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>授業時の発表、参加度、学期末レポートなどによって評価する。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

実践神学研修課程	
説教学演習 I	山口 隆康 小泉 健
前期・2単位	<登録条件>
<授業の到達目標及びテーマ> 説教学の基本を学び、説教作成の方法を身につける。	
<授業の概要> 説教準備の一つ一つの段階の意味について考察しつつ、最初の黙想から説教行為までの実際に取り組む。	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 説教とは何か・説教学の課題</p> <p>第2回 説教題・テキストの朗読</p> <p>第3回 黙想論</p> <p>第4回 作成（1）第一の黙想</p> <p>第5回 作成（2）テキストの本文批評と私訳</p> <p>第6回 説教における釈義の意味</p> <p>第7回 作成（3）テキストの釈義</p> <p>第8回 「解釈と適用」の問題</p> <p>第9回 説教黙想とは何か</p> <p>第10回 会衆をめぐる黙想</p> <p>第11回 説教黙想の実例</p> <p>第12回 作成（4）説教黙想</p> <p>第13回 説教の構造と構成</p> <p>第14回 説教の始め方と終わり方</p> <p>第15回 説教の演述</p>	
<準備学習等の指示> 聖書全巻を通読しておくこと。	
<テキスト>	
<参考書> テーマごとにクラスで指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 説教作成の諸段階で、その都度レポートを提出する。遅れて提出することは認められないので、その都度必ず提出すること。	

実践神学研修課程	
説教学演習Ⅱ	小泉 健
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 説教学の基本を学び、実際になされた説教を分析する方法を身につける。</p>	
<p><授業の概要> 説教分析の方法論を明確にし、実際になされた説教を取り上げて、説教分析に実際に取り組む。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 会衆席の説教学 第2回 説教分析基礎論 第3回 説教分析の方法 第4回 分析（1）第一印象の収集 第5回 第一印象論 第6回 分析（2）説教の構造と構成 第7回 説教の構造と構成 第8回 分析（3）説教における説教者 第9回 説教における説教者 第10回 分析（4）説教における聞き手 第11回 説教における聞き手 第12回 分析（5）説教と聖書テキスト 第13回 説教と聖書テキスト 第14回 分析（6）説教における神の名 第15回 説教における神の名</p>	
<p><準備学習等の指示> 聖書全巻の通読を続けること。配布される論文、説教を十分読んで準備すること。</p>	
<p><テキスト> 毎回、使用するテキストを教室で配布する。</p>	
<p><参考書> 加藤常昭『説教批判・説教分析』教文館</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への参加度、期末のレポートによって評価する。</p>	

実践神学研修課程	
説教学演習Ⅲ	近藤 勝彦
後期・2単位	<登録条件>修士論文を提出し、赴任に備える者
<p><授業の到達目標及びテーマ> 現代の世界における教会に遣わされて説教する者として、その構え、説教準備の方法、ならびに説教の内容、説教のための神学を身につけることを目標とする。</p>	
<p><授業の概要> 各自指示されたテキストによって実際に説教をする。そのうえで説教者として必要な備えを身につけるための必要事項を学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 牧師として赴任していく自覚を深めつつ、授業に参加し、他者の説教の長所、短所からも学ぶこと。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第一回：テキストの分担決定、説教準備の過程、説教題、説教原稿について</p> <p>第二回：①ヨハネによる福音書3・1-15； 聖書との取り組み、注解書と説教黙想</p> <p>第三回：②フィリピ3・17-21； 説教の導入と構成</p> <p>第四回：③出エジプト記3・1-10； 説教と祈り、そして讃美歌</p> <p>第五回：④詩編46編； 説教による牧会とアピールする力</p> <p>第六回：⑤使徒言行録16・16-34； 説教と神学</p> <p>第七回：⑥エレミヤ書23・16-32； 説教による伝道と教会形成</p> <p>第八回：⑦ローマ8・1-11； 説教における倫理的勧め</p> <p>第九回：⑧コリント二5・14-21； 説教による時代批判</p> <p>第十回：⑨と⑩ルカによる福音書1・46-55</p> <p>第十一回：⑪と⑫サムエル記下12・1-14</p> <p>第十二回：⑬と⑭詩編118編</p> <p>第十三回：⑮と⑯ペトロの手紙一2・18-25</p> <p>第十四回：⑰と⑱ルカによる福音書10・25-37</p> <p>第十五回：⑲と⑳フィリピ4・2-7</p>	
<p><準備学習等の指示> 指示されたテキストによる説教の準備をすること、他者の説教に聴きつつ自らの構えの形成のために学ぶこと。</p>	
<p><テキスト> 各自分担の聖書箇所（原典と翻訳）、讃美歌、諸注解書、説教メディアタチオン、諸説教集など。</p>	
<p><参考書> その都度の注解書、説教メディアタチオンなど、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席状況、担当箇所の説教内容（最後にレポートの形で提出すること）によって評価する。</p>	

実践神学研修課程	
礼拝学演習	小泉 健
後期・2単位	<登録条件> 修士論文を提出し、2012年4月に教会、学校に赴任する意志が明確であること
<授業の到達目標及びテーマ> 礼拝学の基本、特に教会の礼拝を司る者が身につけるべき礼拝学的思考の特質を学ぶ。	
<授業の概要> 主日礼拝を初めとして、その他の諸礼拝、結婚式、葬儀などの祈りの形式について学ぶ。	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 礼拝学的思考の特質</p> <p>第2回 キリスト教礼拝史（1）古代教会の祈り</p> <p>第3回 キリスト教礼拝史（2）中世の教会とローマ典礼</p> <p>第4回 キリスト教礼拝史（3）宗教改革における礼拝改革</p> <p>第5回 キリスト教礼拝史（4）近代・現代の礼拝</p> <p>第6回 ローマ・カトリック教会における典礼の刷新</p> <p>第7回 東方教会の奉神礼</p> <p>第8回 日本基督教団の主日礼拝式と礼拝祈祷</p> <p>第9回 洗礼式</p> <p>第10回 聖餐礼典</p> <p>第11回 結婚式</p> <p>第12回 葬儀</p> <p>第13回 礼拝堂</p> <p>第14回 教会学校</p> <p>第15回 礼拝と伝道</p>	
<準備学習等の指示> 発表者だけでなく、参加者全員が自分なりの課題や意見を整理して演習に臨むこと。	
<テキスト>	
<参考書> W. ナーゲル『キリスト教礼拝史』教文館	
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への参加度によって評価する。	

実践神学研修課程	
牧会学演習	小泉 健
後期・2単位	<登録条件> 修士論文を提出し、2012年4月に教会、学校に赴任する意志が明確であること
<授業の到達目標及びテーマ> 実践神学を牧師学としてとらえ、牧師が身につけるべき基本を学ぶ。	
<授業の概要> 牧師が担うべき教務、牧師が実践活動を行う場面を一つずつ取り上げ、必要な知識と方法を身につける。	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 牧師学としての実践神学 第2回 「牧師職」、赴任と離任 第3回 招聘制度と牧会 第4回 結婚と離婚 第5回 キリスト者の家庭と信仰の継承 第6回 病者の牧会 第7回 葬儀とその周辺 第8回 告解・面談 第9回 洗礼への導きと受洗準備 第10回 聖餐と牧会 第11回 教会戒規 第12回 教会総会 第13回 役員会 第14回 牧会と教会法 第15回 牧師論</p>	
<準備学習等の指示> 発表者だけでなく、参加者全員が自分なりの課題や意見を整理して演習に臨むこと。	
<テキスト>	
<参考書> E. トゥルナイゼン『牧会学Ⅰ』『牧会学Ⅱ』日本基督教団出版局	
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への参加度によって評価する。	

実践神学研修課程	
総合特別講義	山口 隆康
後期・4単位	<登録条件> 修士論文を提出し、2012年4月に教会・学校に赴任する意志の明確な者
<授業の到達目標及びテーマ>福音主義教会が現在直面している問題、課題に適切に対応していくために必要な学びである。	
<授業の概要>その分野の専門家が、テーマごとの講義を行うオムニバス形式の総合講義である。	
<履修条件>原則として全回出席できる者	
<p><授業計画></p> <p>第1回：山口隆康教授「日本基督教団史Ⅰ」日本基督教団の成立前史</p> <p>第2回：山口隆康教授「日本基督教団史Ⅰ」日本基督教団の成立</p> <p>第3回：山口隆康教授「日本基督教団史Ⅰ」日本基督教団の成立と会派問題</p> <p>第4回：山口隆康教授「日本基督教団史Ⅰ」教憲・教規、信仰告白の制定とその後の歩み</p> <p>第5回：長山信夫講師「日本基督教団史Ⅱ」教団史と紛争史の視点</p> <p>第6回：長山信夫講師「日本基督教団史Ⅱ」「教団紛争」とはなんであったか？</p> <p>第7回：長山信夫講師「日本基督教団史Ⅱ」紛争史の問題点と問題項目</p> <p>第8回：長山信夫講師「日本基督教団史Ⅱ」紛争史の文脈における現在の日本基督教団</p> <p>第9回：大住雄一教授「日本基督教団論」日本基督教団教憲</p> <p>第10回：大住雄一教授「日本基督教団論」日本基督教団教規</p> <p>第11回：大住雄一教授「日本基督教団論」所属教会の教会規則（準則）</p> <p>第12回：大住雄一教授「日本基督教団論」宗教法人法と宗教法人規則</p> <p>第13回：栗林輝夫講師「部落解放とキリスト教Ⅰ」</p> <p>第14回：栗林輝夫講師「部落解放とキリスト教Ⅰ」</p> <p>第15回：東岡山治講師「部落解放とキリスト教Ⅱ」</p> <p>第16回：東岡山治講師「部落解放とキリスト教Ⅱ」</p> <p>第17回：小島誠志講師「地方伝道」</p> <p>第18回：小島誠志講師「地方伝道」</p> <p>第19回：清弘剛生講師「青年伝道」</p> <p>第20回：清弘剛生講師「青年伝道」</p> <p>第21回：本間義信講師「刑務所伝道」</p> <p>第22回：本間義信講師「刑務所伝道」</p> <p>第23回：シュー士戸 ポール講師「ITと伝道」</p> <p>第24回：シュー士戸 ポール講師「ITと伝道」</p> <p>第25回：山崎ハコネ講師「高齢者ケアと牧会」</p> <p>第26回：山崎ハコネ講師「高齢者ケアと牧会」</p> <p>第27回：篠浦千史講師「障害者と教会」</p> <p>第28回：篠浦千史講師「障害者と教会」</p> <p>第29回：朴米雄講師「在日コリアン問題」</p> <p>第30回：朴米雄講師「在日コリアン問題」</p> <p>第31回：愛澤豊重講師「キリスト教系諸宗団の問題」</p> <p>第32回：愛澤豊重講師「キリスト教系諸宗団の問題」</p> <p>第33回：石橋秀雄講師「教会付属幼稚園・保育園（所）の諸問題」</p> <p>第34回：石橋秀雄講師「教会付属幼稚園・保育園（所）の諸問題」</p> <p>第35回：棚村重行教授「エキュメニズムⅠ（世界のエキュメニズム）」</p> <p>第36回：棚村重行教授「エキュメニズムⅠ（世界のエキュメニズム）」</p> <p>第37回：朴憲郁教授「エキュメニズムⅡ（東アジアのエキュメニズム）」</p> <p>第38回：朴憲郁教授「エキュメニズムⅡ（東アジアのエキュメニズム）」</p> <p>第39回：野村忠規講師「牧会者の挫折とその克服」</p> <p>第40回：野村忠規講師「牧会者の挫折とその克服」</p> <p>第41回：近藤勝彦教授「教会と神学校」</p> <p>第42回：近藤勝彦教授「教会と神学校」</p> <p>※講師は予定。当該年度に決定する。</p>	
<準備学習等の指示>日本基督教団の補教師試験を受験する者は、「補教師試験の過去問題集」に目を通しておくこと。	
<テキスト>「日本基督教団史」「教務関係書式集」「日本基督教団教憲教規および諸規則」	
<参考書>担当教授、講師が講義の中で紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）>レポートによって評価する。	